

勅語ヲ下シタマヒタルニ付其謄本及本大臣ノ訓示各一通ヲ交付ス能ク
聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ

訓示

謹テ惟フニ我カ

天皇陛下深ク臣民ノ教育ニ軫念シタマヒ茲ニ恭ク

勅語ヲ下タシタマフ顯正職ヲ文部ニ奉シ躬重任ヲ荷ヒ日夕省思シテ嚮フ所ヲ愆ヲ

シコトヲ恐ル今

勅語ヲ奉承シテ感奮措ク能ハス謹テ

勅語ノ際本ヲ作リ普ク之ヲ全國ノ學校ニ頒ツ凡ソ教育ノ職ニ在ル者須ク常ニ聖意

ヲ奉體シテ研磨薰陶ノ務ヲ怠ラサルヘク殊ニ學校ノ式日及其他便宜日時ヲ定メ生

徒ヲ會集シテ

勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ諄々誨告シ生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラシムヘシ

三、文部省直轄諸學校官制

明治二十六年八月勅令
第八十六號

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

- | | |
|------------|------------|
| 東京高等師範學校 | 廣島高等師範學校 |
| 東京女子高等師範學校 | 奈良女子高等師範學校 |
| 盛岡高等農林學校 | 鹿兒島高等農林學校 |
| 上山蠶絲專門學校 | 東京高等商業學校 |
| 神戸高等商業學校 | 長崎高等商業學校 |
| 山口高等商業學校 | 小樽高等商業學校 |
| 第一高等學校 | 第二高等學校 |
| 第三高等學校 | 第四高等學校 |
| 第五高等學校 | 第六高等學校 |
| 第七高等學校造士館 | 第八高等學校 |
| 千葉醫學專門學校 | 仙臺醫學專門學校 |
| 岡山醫學專門學校 | 金澤醫學專門學校 |
| 長崎醫學專門學校 | 新潟醫學專門學校 |

女子高等師範學校ニ關スル法令

東京高等工業學校
 京都高等工藝學校
 熊本高等工業學校
 米澤高等工業學校
 東京外國語學校
 東京音樂學校
 東京聾啞學校
 東京聾啞學校
 第二條 高等師範學校ニ附屬中學校及附屬小學校ヲ置キ東京高等師範學校ニ東京
 教育博物館附ヲ設ス
 第三條 女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク
 第四條 東京高等商業學校ニ商業教員養成所ヲ附設ス
 第四條ノ二 新潟醫學專門學校ニ附屬醫院ヲ置ク
 第五條 東京高等工業學校ニ附屬職工徒弟學校及附屬工業補習學校ヲ置キ工業教
 員養成所ヲ附設ス

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長
 教授
 生徒監
 助教授
 書記
 第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監
 督ス
 第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル
 第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス
 生徒監ハ校長ノ指揮ヲ受ケ專ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル
 第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ従事ス
 第十一條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ第六條職員ノ外左ノ職員ヲ置ク
 教諭

助 教 諭

訓 導

第十二條 教諭ハ委任トシ助教諭ハ判任トス附屬中學校及附屬高等女學校生徒ノ教育ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十三條 訓導ハ判任トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十四條 高等師範學校ニ助手ヲ置ク判任トス教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス

第十五條 女子高等師範學校ニ保姆ヲ置ク判任トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十六條 東京盲學校及東京聾啞學校ニ教授助教諭ヲ置カス教諭及訓導ヲ置ク教諭ハ委任トシ訓導ハ判任トス
東京盲學校教諭ハ盲教員志望者ノ授業ヲ東京聾啞學校教諭ハ聾啞教員志望者ノ授業ヲ掌リ訓導ハ生徒ノ授業ヲ掌ル

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テ

ハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十八條 文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校東京高等商業學校高等學校及東京高等工業學校教官ノ中ヨリ各其附屬學校主事教員養成所主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專事學部主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得
第十八條ノ二 新瀉醫學專門學校附屬醫院ニ醫院長醫長及醫員ヲ置キ同校教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス
第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

四、文部省直轄諸學校職員定員令

(抄) 明治三十五年三月 勅令第九十九號

文部省直轄諸學校專任職員ノ定員左ノ如シ

(明治四十四年三月三十一日 勅令第七十三號改正ニ依ル)

東京高等師範學校	校長	一 <small>人</small>	教授	五 <small>人</small>	教諭	一 <small>〇</small> <small>人</small>	助教諭	一 <small>〇</small> <small>人</small>	助教諭	八 <small>人</small>	訓導	二 <small>二</small> <small>人</small>	保姆	一 <small>人</small>	助手	二 <small>人</small>	書記	一 <small>〇</small> <small>人</small>
----------	----	--------------------	----	--------------------	----	-------------------------------------	-----	-------------------------------------	-----	--------------------	----	-------------------------------------	----	--------------------	----	--------------------	----	-------------------------------------

女子高等師範學校ニ關スル法令

廣島高等師範學校	一	三九	一	七	五	一九	二	八
東京女子高等師範學校	一	二七	一三	八	〇	二一	六	六
奈良女子高等師範學校	一	二二	一〇	〇	一八		二	六

五、高等官々等俸給令 (抄)

明治四十三年三月
勅令第四百三十四號

第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ叙任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第二條 奏任官ノ任免及叙等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其ノ各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第三條 高等官ノ官等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第一表ニ依ル

(下略)

第四條 初メテ高等文官ニ任セラル、者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラル、場合ニ於テハ其ノ官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官々等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ

一等ヲ進ムルコトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第五條 高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非サレハ陞叙スルコトヲ得ス

第十條 (前略)

文部省直轄學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ二十七人ヲ限リ高等官二等ニ陞叙スルコトヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコトヲ得ス

(下略)

第十二條 奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第二表各號ノ一ニ依ル

(下略)

第十三條 別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ハ高等官三等乃至七等同第二號ニ依ルモノハ高等官四等乃至八等同第三號ニ依ルモノハ高等官五等乃至八等同第四

號ニ依ルモノハ高等官六等以下同第五號ニ依ルモノハ高等官三等以下トス

第二十二條 別表第二表第五號ニ依ル諸官左ノ如シ

(中略)
文部省直轄諸學校教授

(下略)
第二十三條 別表第二表(中略)第五號ニ依ル職員ハ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至

リ功績アル者ニ限リ五百圓以内ノ年功加俸ヲ給(中略)スルコトヲ得

(中略)
第五號ニ依ル諸官及奏任技術官ハ各廳事務ノ繁閑ニ依リ俸給最低額以下ヲ給ス

ルコトヲ得
第二十五條 前數條ニ依ルモノヲ除クノ外高等文官ノ年俸ハ別表第五表ニ依ル但

シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ依ル

(下略)

第三十二條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第三十三條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

休職又ハ待命ヲ命セラレ年俸全額ヲ給セサル場合ハ減俸ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第三十四條 廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第三十五條 休職廢官退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ受ケ事務ニ從事スル場合ニ於テハ其間仍從前ノ年俸ヲ給ス

第三十六條 病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

(第一表)

文武高等官官等表(抄)

勅	親任	任	奏							任
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	
官	文部省直轄 諸學校校長		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
官	文部省直轄 諸學校教諭		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
廳	文部省		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	

文部省直轄諸學校校長ノ中東京盲學校長、東京聾啞學校長ヲ除ク

(第二表)

奏任文官年俸表(抄)

級	俸	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號
一級	(本欄略)	(同上)	(同上)	(同上)	(同上)	三、〇〇〇
二級						二、七〇〇
三級						二、五〇〇

(第五表)(抄)

四級	二、二〇〇
五級	二、〇〇〇
六級	一、七〇〇
七級	一、五〇〇
八級	一、二〇〇
九級	一、〇〇〇
十級	一、〇〇〇
十一級	八五〇
十二級	七五〇

官名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
文部省直轄諸學校校長(東京盲學校長、東京聾啞學校長ヲ除ク)	三、七〇〇	三、〇〇〇	二、七〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	一、七〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	八五〇	七五〇

女子高等師範學校ニ關スル法令

六、判任官俸給令 (抄)

明治四十三年三月
勅令第三百三十五號

第一條 判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル
 第三條 判任文官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス
 第四條 判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ハ特ニ二百二十圓迄ヲ給スルコトヲ得
 第五條 判任文官ノ俸給ハ月俸四十圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ハラズ適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス
 第十三條 判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸三月分ヲ其遺族ニ給ス
 前項遺族ト稱スルハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ依ル
 第十四條 月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス
 前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官々等俸給令ノ例ニ依ル

第十五條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
 (別表)

級	俸	月	額
一級	俸	九拾五	圓
二級	俸	七拾五	圓
三級	俸	六拾五	圓
四級	俸	五拾五	圓
五級	俸	五拾	圓
六級	俸	四拾五	圓
七級	俸	四拾	圓
八級	俸	參拾五	圓
九級	俸	參拾	圓
十級	俸	貳拾五	圓

女子高等師範學校ニ關スル法令

七、文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給ニ關スル件

明治四十三年三月
勅令第四百五十四號

第一條 文部省直轄諸學校教官ノ俸給ハ其ノ授業ノ時間又ハ學科ノ難易輕重ニ依
リ最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條 文部省直轄諸學校教官ニシテ一校又ハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ本官
及兼官ニ於ケル授業ノ時間又ハ學科ノ難易輕重ニ依リ其ノ俸給額ヲ分割シテ各
學校ヨリ給スルコトヲ得

第三條 文部省直轄諸學校ノ囑託講師ニハ教官俸給額ノ中ヨリ相當ノ手當ヲ給ス
ルコトヲ得

第四條 前三條ノ規定ハ東北帝國大學農科大學附屬大學豫科土木工學科林學科水
産學科又ハ臨時教員養成所ノ教授又ハ講師ニ之ヲ準用ス

八、文部省直轄諸學校長職務規程

明治三十三年六月
文部大臣訓令

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣

ニ稟申スルコトヲ得

第二條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文
部大臣ニ報告スヘシ

第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三 俸給月額四拾圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四 職員以下内國各地出張ニ關スルコト

第五 職員以下ノ除服出仕請暇ニ關スルコト

第六 囑託講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七 經費中ノ節ヲ流用スルコト

第八 經伺ノ暇ナキ緊急ノ場合ニ於テ臨時休業ヲ爲スコト

第三條 前條ニ掲ケタル事項ノ外總テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

第四條 校長ハ每會計年度ノ終ニ於テ前年ノ功程ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

九、女子高等師範學校規程

明治三十年十月文
部省令第二十四號

第一條 東京女子高等師範學校ノ學科ヲ分テ文科理科技藝科トシ更ニ各科ヲ分

テテ第一部第二部トス

文科第一部ノ學科目ハ修身教育學國語漢文歷史法制經濟外國語音樂体操トス
文科第二部ノ學科目ハ修身教育學歷史地理國語及漢文法制經濟外國語音樂体操トス

理科第一部ノ學科目ハ修身教育學數學物理化學礦物外國語音樂体操トス
理科第二部ノ學科目ハ修身教育學植物動物生理及衛生地質及礦物數學物理及化學外國語圖書音樂体操トス

技藝科第一部ノ學科目ハ修身教育學家事生理及衛生應用理科裁縫圖書國語外國語音樂体操トス

技藝科第二部ノ學科目ハ修身教育學家事生理及衛生應用理科圖書手藝及手工國語外國語音樂体操トス但シ手藝及手工ハ生徒ヲシテ其ノ一科目ヲ選修セシム

第二條 奈良女子高等師範學校ノ學科ヲ分テ豫科本科トシ更ニ本科ヲ分テ國

語漢文部地理歴史部數物化學部博物家事部トス

豫科ノ學科目ハ修身國語漢文外國語數學習字圖書音樂裁縫体操トス

本科國語漢文部ノ學科目ハ修身教育學國語漢文外國語歷史習字音樂体操トス

本科地理歴史部ノ學科目ハ修身教育學地理歴史國語及漢文外國語法制經濟音樂体操トス

本科數物化學部ノ學科目ハ修身教育學數學物理化學外國語手工音樂体操トス

本科博物家事部ノ學科目ハ修身教育學植物動物生理及衛生礦物及地質家事外國語物理及化學音樂体操トス

前各項ノ外本科各部ニ圖書音樂裁縫手藝体操及園藝ヲ加ヘ生徒ノ所長ニ從ヒ其一科目ヲ選修セシム但シ當分ノ内本文ノ一科目又ハ數科目ヲ缺キ又ハ生徒ノ所長及學業成績ノ情況ニ由リ之ヲ課セサルコトアルヘシ

第三條 前二條ノ學科目中音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

第四條 女子高等師範學校ノ學科ハ師範學校女子部ノ課程ニ照シ更ニ一層精深ナ

ル程度ニ於テ教授スルモノトス

第五條 東京女子高等師範學校ニ於ケル文科、理科技藝科ノ修業年限ハ各四箇年トス

第六條 奈良女子高等師範學校ニ於ケル修業年限ハ豫科四箇月、本科三箇年八箇月トス

第七條 第四年級生徒ハ附屬學校及幼稚園ニ於テ實地授業及保育ニ從事セシム

第八條 生徒在學中懲戒ニ依リ退學ヲ命セラレタル者及自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學資及授業費ヲ償還スヘシ
文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學資及授業費ノ全部若ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第九條 生徒在學中疾病ニ罹リ若ハ學業進マス又ハ品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ

第十條 女子高等師範學校ノ卒業生又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ第一條及第二條ニ規定シタル科目中ノ一科目又ハ數科目ヲ專攻セントスル者ノ爲メニ

研究科ヲ置ク

研究科ノ修業年限ハ一箇年乃至二箇年トス

第十一條 師範學校女子部及高等女學校教員ノ缺乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得

專修科ノ學科目及其ノ程度並ニ修業年限募集人員、入學者資格等ハ其都度文部大臣ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第十二條 師範學校女子部又ハ高等女學校教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ東京女子高等師範學校文科、理科技藝科又ハ奈良女子高等師範學校本科各部中ノ一科目若クハ數科目ヲ選ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得

撰科生ハ何等ノ科目ヲ撰フニ拘ラス修身、教育學ヲ兼修スルコトヲ要ス
撰科生ノ在學期間ハ四箇年トス但シ特別ノ事情アル者ニ就キテハ學校長ニ於テ本文ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得

第十三條 二箇年以上ノ課程ヲ卒リタル本科生ニハ學業ノ成績ニ依リ所設ノ科目

中其數ヲ限リ修メシムルコトヲ得

十、女子高等師範學校生徒募集規則

明治三十年十月文
部省令第二十二號

第一條 女子高等師範學校本科生及官費專修生ハ師範學校女子部修業年限四ケ年ノ高等女學校卒業生及之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ地方長官之ヲ薦舉シ女子高等師範學校長其ノ中ヨリ試驗ノ上選拔スルモノトス但本科生ハ年齡十七年以上二十二年未滿ニシテ夫ヲ有セサルモノニ限ル

女子高等師範學校長ハ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定シタルモノ、外薦舉ニ關スル條件ヲ定ムルコトヲ得

第一項ニ掲ケタル師範學校及高等女學校ノ生徒ニシテ當該學校長ニ於テ本條ノ募集ニ依リ入學スヘキ者ノ入學期以前ニ卒業スヘシト認メタル者ハ當該學校ノ卒業者ニ準スルコトヲ得

第二條 女子高等師範學校本科生ハ毎年一回官費專修生ハ臨時之ヲ募集ス其ノ期

日及員數ハ其ノ都度女子高等師範學校長ヨリ地方長官ニ通知スルモノトス

第三條 第一條ニ依リ募集スルモノ、外女子高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齡當該學級ニ相當スル者ヲ募集シ試驗ノ上入學セシムルコトヲ得

第四條 (削除)

第五條 研究生私費專修生及撰科生ノ募集ニ關スル規程ハ女子高等師範學校長之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

(備考)

朝鮮總督府及臺灣總督府ニ於テ管内高等女學校卒業生ニ就キ相當資格アル者ヲ薦舉シタル場合ハ本則第一條ノ地方長官薦舉ニ準ス (明治四十四年十月廿六日) (普通事務局長通牒摘要)

十一、文部省直轄學校外國人特別入學規程

明治三十四年十一月
文部省令第十五號

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省、在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

女子高等師範學校ニ關スル法令

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添へ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料、入學料及授業料ヲ徴收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

十二、臺灣人若ハ朝鮮人ノ文部省直轄學校入學ニ關スル取扱方

明治四十四年四月文部省令第十六號

文部省直轄學校外國人特別入學規程ハ臺灣人若ハ朝鮮人ニ之ヲ準用ス但シ其入學

ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

十三、朝鮮人留學生ニ關スル取扱方

明治四十四年十月六日官普
一〇四號文部省各局長通牒

一、留學生監督ノ紹介ヲ以テ本年文部省令第十六號中ノ朝鮮總督府ノ紹介ト看做スコト

二、留學生ノ入學、轉學及退學ハ朝鮮總督又ハ留學生監督ヲ經由セサルモノニ在リテハ之ヲ許可セサルコト

三、留學生ノ進級、卒業ハ其都度當該學校ヨリ學業成績表ヲ添付シ留學生監督ニ通知スルコト

四、留學生左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當該學校ヨリ留學生監督ニ通知スルコト
一、品行不良ニシテ留學生タル體面ヲ汚辱スヘキ行爲アリタルトキ

二、學校ノ規定ニ違背シタルトキ
三、疾病又ハ學業ノ成績不良ノ爲成業ノ見込ナシト認メタルトキ

五、留學生ノ教養ニ付テハ特ニ注意シ學校ノ内外ニ於ケル保護監督ヲ有效ナラシ

女子高等師範學校ニ關スル法令

ムルコト

六、留學生ノ行動ニ關シ特ニ必要ト認メタル事項ハ當該學校ヨリ留學生監督ニ通知スルコト

七、留學生ニ關スル重要ナル事項ハ朝鮮總督ニ報告スルコト

十四、高等師範學校女子高等師範學校及師範學校入學

志望者入學禁止項目

明治三十五年二月
文部省令第五號

高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校ニ於テハ其ノ入學志望者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヲ入學セシムヘカラス

一、明治三十三年文部省令第四號學生々徒身體檢査規程第五條第一項第七號ノ體格薄弱ニ屬スル者

二、精神機能ニ障害アル者

三、傳染性眼炎ヲ患フル者又ハ眼鏡ヲ以テ補正スルコト能ハサル近視亂視弱視等ヲ有スル者

四、聽官又ハ言語ノ障害著キ者

五、肺結核其他結核ノ諸兆アル者

六、心臟瓣膜病ヲ患フル者

七、惡性腫瘍、腎臟炎、糖尿病、重症貧血等ヲ患フル者

八、修學上ニ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

十五、文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受

ケタル他ノ直轄諸學校入學試驗無效ニ關スル規定

明治三十八年文部省令第十八號

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試驗ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試驗ハ無効トス

十六、文部省直轄諸學校ノ二學校以上ニ入學出願者ノ

入學スヘキ學校

明治三十六年文部省令第九十六號

女子高等師範學校ニ關スル法令

同一人ニシテ文部省直轄諸學校中ノ二箇以上ノ學校ニ入學ヲ出願シタル者ハ其最前ニ入學ヲ許可セラレタル學校ニ入學スヘキモノトス但同時ニ二箇以上ノ學校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學校ハ本人ノ選擇ニ任ス

十七、女子高等師範學校卒業生服務規則

明治四十二年十二月
文部省令第二十七號

第一條 女子高等師範學校卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間引續キ教育ニ

關スル職務ニ從事スル義務ヲ有ス

一、本科卒業生中甲種ノ學資支給ヲ受ケタル者ハ五箇年

二、本科卒業生中乙種ノ學資支給ヲ受ケタル者ハ四箇年

三、本科私費卒業生ハ三箇年

四、專修科卒業生中學資ノ支給ヲ受ケタル者

修業年限三箇年ノ者ハ三箇年
修業年限二箇年ノ者ハ二箇年

五、專修科私費卒業生

修業年限三箇年ノ者ハ二箇年
修業年限二箇年ノ者ハ一箇年

第二條 女子高等師範學校卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務ヲ有ス

一、本科卒業生中甲種ノ學資支給ヲ受ケタル者ハ三箇年

二、本科卒業生中乙種ノ學資支給ヲ受ケタル者ハ二箇年

三、本科私費卒業生ハ一箇年

四、專修科卒業生中學資ノ支給ヲ受ケタル者

修業年限三箇年ノ者ハ二箇年
修業年限二箇年ノ者ハ一箇年

五、專修科私費卒業生ハ一箇年

第三條 女子高等師範學校卒業生ニシテ特別ノ事情ニ依リ第一條ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル者ハ其ノ理由ヲ具シ女子高等師範學校長又ハ地方長官ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ出願シタル者アリタルトキハ女子高等師範學校長又ハ地方長官ハ事實ヲ審査シ意見ヲ付シテ願書ヲ進達スヘシ

第四條 女子高等師範學校卒業生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アリタルトキハ文部大臣ノ指揮ニ依リ學資支給ヲ受ケタル者ニ在リテハ授業費及在學中支給セラレタル學資、私費卒業生ニ在リテハ授業費ヲ償還セシム但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

- 一 第一條ノ義務ヲ履行セサル者
- 二 服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者
- 前項授業費ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ
- 第五條 女子高等師範學校卒業者ニシテ服務年限中研究科等ニ入學セムトスル者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ
- 第六條 女子高等師範學校卒業者ニシテ第三條ニ依リ其ノ義務ヲ猶豫セラレタルトキ又ハ前條ニ依リ研究科等ニ入學シタルトキハ其ノ猶豫又ハ在學ノ期間ハ服務年數ニ算入セス

附 則

本令ハ明治四十三年三月一日ヨリ施行ス

本令施行以前ニ入學シタル者ノ服務年限ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

十八、女子高等師範學校卒業生服務規則

明治三十年七月
文部省令第十二號

- 第一條 女子高等師範學校本科卒業生ニシテ所定學資ノ全部支給ヲ受ケタル者ノ

- 服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年一部支給ヲ受ケタル者ハ三箇年自費生ハ二箇年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有スルモノトス但學資ノ支給ヲ受ケタル者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス(明治三十年文部省令第二十三號同三十一年文部省令第三十六號ヲ以テ改正)
- 女子高等師範學校官費專修科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年トシ其ノ間教職ニ従事スル義務アルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス(明治三十年文部省令第二十三號ヲ以テ追加)
- 第二條 (明治三十一年文部省令第十八號ヲ以テ削除)
- 第三條 第一條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故アル者ハ其理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ請願スルコトヲ得
- 第四條 (同上)
- 第五條 卒業生ニシテ左ノ一項ニ該當スル者アルトキハ文部大臣ノ命ニヨリ在學中給與シタル學資ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシム
- 一 第一條ノ義務ヲ盡サ、ル者但第三條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得タル者ハ學

資ノ全部若クハ幾部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

二 服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

第六條 服務年限中ノ卒業生ニシテ研究科專修科及撰科ニ入學志願ノ者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ(明治三十年文部省令第二十三號同三十八年文部省令第五號ヲ以テ改正)

指定義務ヲ終ラサル者ニシテ前項ノ場合ニ該當スルトキハ入學中ノ年限ハ指定服務年限中ヨリ除算スルモノトス

十九、學生生徒及幼兒身體檢査規程

明治三十三年三月
文部省令第四號

第一條 學生生徒ノ身體檢査ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ
學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ學生生徒ニ就キ臨時身體檢査ノ全部若ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

第二條 明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カサル町村立學校及私立ノ小學校及各種學校ハ本令ノ身體檢査ヲ行ハサルコトヲ得

第三條 身體檢査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但シ學校醫ヲ置カサル場合ニ

於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條 身體檢査ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一 身長
- 二 體重
- 三 胸圍
- 四 脊柱
- 五 體格
- 六 視方
- 七 眼疾
- 八 聽力
- 九 耳疾
- 十 齒牙
- 十一 疾病

小學校生徒ニ在リテハ視力及聽力ノ二項目ヲ檢査スルコトヲ要セス但シ著シキ障害アリト認ムルモノハ此限ニアラス

第五條 身體檢査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ(明治四十五年文部省令第一號ヲ以テ改正)

- 一 檢査ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、衡ハ匁ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋靴等ヲ脱セシメ兩蹠ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ鬘アル者ハ小桿ヲ鬘下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ
- 三 體重ハ着衣ノ儘測定シタルトキハ其着衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 四 胸圍ハ兩上肢ヲ直鉛ニ垂レ自然ノ位置ニ在ラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ常時ヲ

測定スヘシ充盈、空虚ノ差ヲ測定スルトキ亦同シ但シ小學校生徒ニ在リテハ常時ノミヲ測定スルモノトス

六、脊柱ハ正、左彎、右彎、前屈、後屈ヲ検査シ屈彎ニ就キテハ其程度ニ依リ各強中弱ノ三種ニ區別スヘシ

七、體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ

八、視力ハ中心視力ヲ两眼ニ就キテ各別ニ検査スヘシ

九、聽力ハ其ノ障害ノ有無ヲ検査スヘシ

十、齒牙ハ齶齒ニ就キ検査スヘシ

十一、疾病ハ腺病、營養不良、貧血、脚氣、肺結核、頭痛、脚氣、神經衰弱、鼻疾、咽喉病、傳染性皮膚病其ノ他慢性疾患等検査ノ際ニ發見シタルモノヲ記入スヘシ

前各號ノ外身體検査上必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フヘシ

第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ左ノ様式ニ依リ身體検査票ヲ調製スヘシ

身體検査票

校名	姓 名	出生地
----	-----	-----

名 (科)	出生年月	身長	體重	胸 常時		胸圍 盈虛ノ差	脊 柱	體 格	視 力		検査年月	學 年	眼 疾	聽 力	耳 疾	齒 牙 上顎齶齒數 下顎齶齒數	疾 病	本人ニ對スル 注意事項	備 考	検査醫姓名印	
				左	右																

第六條ノ二 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ各本人ニ關スル検査ノ結果ヲ學生、生徒又ハ其ノ保護者ニ示スヘシ (全省令ヲ以テ追加)

第七條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ左ノ様式 (全省令ヲ以テ改正)ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月限リ文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ其他ノ學校長ニ在リテハ

奈良女子高等師範學校ニ關スル法令

地方長官ニ報告スヘシ
 地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ其ノ年六月限リ文部大臣ニ
 報告スヘシ

(校名) 學生生徒身體検査計表 (男女) (明治 年四月検査)

年	年											
	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年
身長	總長											
	最大											
	平均											
體重	總重											
	最大											
	平均											
胸圍	總長											
	最大											
	平均											
脊柱	正											
	左弱											
	右弱											
	前屈											
	後屈											
	體格											
視力	左眼											
	右眼											
	兩眼											
	其他											
眼疾												
聽力												
齒牙												
疾病												
検査人員												

一本表ハ男生徒女生徒ヲ置クモノ及學科ノ部類ヲ異ニスルモノハ各別ニ調製スヘシ

一年齡ハ四月一日ノ計算ニ依リ滿六年一日以上滿七年迄ノ者ヲ七年トシ其ノ他之ニ準ス

一身長胸圍ニ係ル總長體重ニ係ル總重ノ各欄ニハ孰モ同一年齡ニ於ケル各検査人員ノ身長胸圍又ハ體重ノ各合計ヲ掲ケ最大最小ノ各欄ニハ其ノ検査人員中ノ最大最小ナルモノヲ掲ケ平均ノ各欄ニハ其検査人員ヲ以テ身長胸圍ノ總長又ハ體重ノ總重ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ

一視力ニ就キテハ兩眼ノ欄ニハ兩眼トモ正視遠視近視又ハ其ノ他(亂視斜視弱視等)ノ者ノ人員ヲ掲ケ左眼又ハ右眼ノ欄ニハ左眼又ハ右眼ノ一方ノミ正視遠視近視又ハ其ノ他(亂視斜視弱視等)ノ者ノ人員ヲ掲クヘシ但シ失明者ニ關シテハ兩眼又ハ片眼ニ區別シ備考ノ欄ニ於テ其數ヲ示スヘシ

一検査スヘキ項目ノ一部ノ検査ヲ缺キタル者ハ之ヲ表中ニ計入スヘカラス

一外國人ニ係ルモノハ之ヲ計入スヘカラス

奈良女子高等師範學校ニ關スル法令

一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ
 一學校ニ於ケル重ナル疾病ノ原因及豫防等ニ關シ學校醫等ノ意見アルトキハ之ヲ表末ニ附記スヘシ

八條

幼稚園ニ於テハ本令中小學校生徒ノ身体検査ニ關スル規定ヲ準用ス

二十、行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

明治四十三年八月
 文部省訓令第十八號

一武装携銃ノ場合

(略ス)

二武装セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ指揮者ノ前ニ達シタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシメ(體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈セシム)徐ニ元ノ姿勢ニ復セシム

御車カ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

右訓令ニ關シ文部次官通牒摘要 (明治四十三年八月二十六日)

追テ大雨雪ノ際ハ雨具ヲ用フルモ苦カラス又幼稚園並尋常小學校第二學年以下ノ兒童ハ參列セシメサルヲ可トシ尙第三學年以上ノ兒童ト雖場合ニ依リ參列セシメサルモ差支無之候條御承知相成度

右訓令ニ關シ文部省普通學務局長通牒摘要 (明治四十三年八月廿六日)

文部省訓令第十八號末段敬禮ヲ終リ直立不動ノ姿勢ニ復シタル後目迎目送ハ差支ナシ

二十一、學校及圖書館特別會計法

明治四十年三月
 法律第二十三號

第一條 文部省直轄諸學校及帝國圖書館ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計ヲ立テシメ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入、授業料寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ歲出ニ充テシム

第二條 前條ノ政府支出金ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ之ヲ繰入

ルヘシ

第三條 學校及圖書館資金ハ政府ヨリ交付シ又ハ他ヨリ寄付シタル動産及不動産
並歲入殘餘ヨリ成ル

但シ第八條施行豫算ノ歲入殘餘ニシテ資金ニ編入セラレタルモノハ學校及圖書
館毎ニ區分シ之ヲ整理スヘシ

第四條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但シ用途ヲ指定シタル資金ハ用途指定者
ノ同意ヲ得テ元金ヲ使用スルコトヲ得

第五條 學校及圖書館ニ屬スル收入ヲ以テ其ノ歲出ヲ支辨シ別ニ政府支出金ヲ要
セサルニ至リタルトキハ當該學校及圖書館ノ爲ニ特別會計ヲ設クルモノトス

第六條 教員事務員ノ俸給諸給、旅費器具機械圖書標本費、授業費、試験費、生徒ニ關ス
ル諸費、事務所費、修繕費、雜支出其ノ他寄付者ノ指定シタル用途ヲ以テ學校及圖書
館特別會計ノ歲出トス

第七條 政府ハ毎年學校及圖書館特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總
豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 文部大臣ハ歲入歲出豫算決定ノ後學校及圖書館毎ニ歲入歲出ノ施行豫算
ヲ調製シ學校長及圖書館長ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ

第九條 學校及圖書館ニ於テ外國ヨリ直接ニ圖書機械標本及實驗用材料ノ買入ヲ
爲ス場合ニハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十條 寄付金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘ
シ

第十一條 獎學ヲ目的トスル寄付金ハ之ヲ其ノ學校ニ交付シ學校長ニ經理ヲ委任
スルコトヲ得

第十二條 委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ニ依ル

第十三條 學校及圖書館特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

官立學校及圖書館會計法ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際各學校及圖書館ニ於テ從來資金トシテ所有スル動産不動産ハ總テ學

校及圖書館資金ニ之ヲ編入スヘシ但シ收入ノ目的ヲ以テ所有シタル資金ハ第三條但書ニ依ル

二十二、學校及圖書館特別會計規則

明治四十年三月
勅令第六十號

第一章 資 金

第一條 資金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ之ヲ特別資金トシ其ノ他ノモノハ之ヲ維持資金トス

特別資金ヨリ生スル利子其ノ他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其ノ殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツルモノトス

維持資金ヨリ生スル利子其ノ他ノ收入ハ學校圖書館一般ノ經費ニ充ツルモノトス但シ學校及圖書館特別會計法第三條但書及附則第三項但書ニ依リ整理スル資金ヨリ生スル收入ハ各當該學校及圖書館ノ經費ニ充ツルモノトス

第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條 資金ニ屬スル現金ハ總テ大藏省預金部ニ寄託スヘシ

第四條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産公債證書其ノ他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産公債證書其ノ他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産公債證書其ノ他ノ証券ニ換ヘントスルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但シ寄付ニ係ル不動産ハ寄付者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ離權スルコトヲ得ス

第五條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ

第六條 資金ニ屬スル現金ノ受入及拂出ニ關スル取扱方ハ所管大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二章 豫算決算

第七條 歳入歳出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第八條 所管大臣ハ其ノ年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ

第九條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三章 收入支出

第十條 學校長及圖書館長ハ歳出ヲ支出スル爲メ金庫ニ向ヒテ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第十一條 學校及圖書館ニ於テハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ仕拂元受高ト爲シ歳出ヲ支出スルハ此ノ仕拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十二條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ翌年度四月三十日限トス

第十三條 仕拂請求書ノ發行及執行並其ノ取扱手續ハ會計規則仕拂命令ノ例ニ依ル

第十四條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第十五條 學校及圖書館ニ於テ在外國人學術家又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買採集又ハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其ノ委託ヲ受ケタル者ヲ受取人トシ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第四章 年度繰越

第十六條 毎年度内ニ於テ仕拂フヘキ義務ヲ生シ債主ノ支出請求ナキカ又ハ事故アリテ翌年度四月三十日迄ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノ及仕拂請求書ヲ發シタルモ同日迄ニ金庫ニ於テ仕拂請求ヲ受ケサルモノハ支出未濟又ハ仕拂未濟トシテ翌年度ニ繰越計算ヲ爲スヘシ

第十七條 工事又ハ製造費ニシテ年度内ニ仕拂義務ヲ生セス仕拂請求書ヲ發スルニ至ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十八條 所管大臣ハ前條ニ依リ繰越ヲ爲サントスルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作り参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第十九條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
第二十條 特ニ用途ヲ指定シタル寄付金ニシテ毎年度内ニ仕拂請求書ヲ發スルニ至ラサリシ殘額ハ總テ翌年度ニ繰越シ使用スヘシ其ノ仕拂請求書ヲ發シテ年度内ニ金庫ニ於テ仕拂ヲ終ラサリシモノハ第十六條仕拂未濟金ノ例ニ依ル但シ本條ノ支出殘額ニシテ爾後仕拂ヲ要セサルモノハ寄付者ノ同意ヲ得テ資金ト爲スコトヲ得

第二十一條 第十六條又ハ前條ニ依リ繰越シタル支出未済及仕拂未済ノ金額ニシテ會計法第十八條ニ依リ期滿免除ト爲リタルモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第二十二條 毎年度ノ歳入中支出済額及繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第五章 雜 則

第二十三條 大藏省ハ學校及圖書館特別會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入済額、不納缺損額、收入未済額、歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、仕拂元受高支出済額、翌年度繰越額、殘額ヲ登記スヘシ

第二十四條 歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入済額、不納缺損額、收入未済額ヲ登記スヘシ

第二十五條 文部省ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入済額、不納缺損額、未済額ヲ登記スヘシ

第二十六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、仕拂請求書受領済額ヲ登記シ又仕拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高、仕拂請求書受領済額、仕拂額ヲ登記スヘシ

シ

第二十七條 所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校及圖書館會計監理官トシ學校及圖書館ノ會計ヲ監督セシムヘシ

第二十八條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

◎本校規則細則類

明治四十二年四月制定

一、奈良女子高等師範學校規則

第一章 目的

第一條 本校ハ女子師範學校師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成シ兼テ普通教育及幼兒保育ノ方法ヲ研究スルヲ以テ目的トス

第二章 學科及修業年限

- 第二條 學科ヲ分テ豫科及本科トス
- 第三條 豫科ノ學科目ハ修身國語漢文外國語數學習字圖畫音樂裁縫體操トス
- 第四條 本科ハ分テテ國語漢文部地理歴史部數物化學部及博物家事部トス
- 第五條 國語漢文部ノ學科目ハ修身教育學國語漢文外國語歷史習字音樂體操トス
- 地理歴史部ノ學科目ハ修身教育學地理歴史國語及漢文外國語法制經濟音樂體操トス

明治四十四年
十月四日本項
中習字追加

數物化學部ノ學科目ハ修身教育學數學物理化學外國語手工音樂體操トス
博物家事部ノ學科目ハ修身教育學植物動物生理及衛生鑛物及地質家事外國語物理及化學音樂體操トス

前各項ノ學科目ノ外各部ニ通シテ習字圖畫音樂裁縫手藝體操及園藝ヲ加ヘ各生徒ノ所長ニ從ヒ其一科目ヲ選修セシム但當分ノ内本文ノ一科目又ハ數科目ヲ缺

キ又生徒ノ所長及學業成績ノ情況ニ由リ之ヲ課セサルコトアルヘシ
第六條 本科各生徒ノ履修スヘキ學部ハ其所長ニ從ヒ各自ノ志望ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第七條 第五條ノ學科目中音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトアルヘシ

第八條 修業年限ハ豫科四箇月本科三年八箇月トス

第九條 本科第三學年以上ノ生徒ニシテ學業ノ成績ニ依リ規定ノ學科目中數科目ヲ修ムルヲ適當ト認メタル者ニハ專ラ該科目ヲ履修セシムルコトアルヘシ

第三章 學年學期及休業

第十條 學年ハ九月十一日ニ始リ翌年七月二十日ニ終ル

第十一條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ一月八日ヨリ三月二十四日ニ至リ第三學期ハ四月八日ヨリ七月二十日ニ至ル

第十二條 休業日ハ左ノ如シ

祝日 大祭日

皇后陛下御誕辰

日曜日

春季休業 自三月二十五日 至四月七日

夏季休業 自七月二十一日 至九月十日

冬季休業 自十二月廿五日 至翌年一月七日

第四章 學科程度及教授時數

第十三條 豫科ノ各學科目ハ左ニ掲クル程度ニ於テ各生徒ノ素養ヲ參酌シテ之ヲ教授ス

修身

生徒心得 修徳ノ要旨

國語

講讀 作文

漢文

講讀

外國語

讀方 譯解

數學

算術 代數ノ初歩 幾何ノ初歩

習字

練習

圖書

自在畫

音樂

唱歌 樂器練習(隨意)

裁縫

裁方 縫方 繕方

體操

普通體操 遊戲

第十四條 本科各部ニ屬スル各學科目ノ程度ハ左ノ如シ

◎國語漢文部

修身

人倫道德ノ要領 作法 本邦法制ノ大要 教授法

教育學

心理 論理 教育 教育史 教授法 保育法 教育法令及學校管理法 實地

練習

國語

講讀 文法 作文 詠歌 文學史 教授法

漢文

講讀 文法 作文 教授法

外國語

讀方 譯解 文法

歷史

國史 東洋史

習字

楷行草 假名

音樂

唱歌 樂器練習(隨意)

體操

普通體操 遊戲 教授法

◎地理歷史部

本校規則細則類

修身	人倫道德ノ要領	作法	本邦法制ノ大要	教授法
教育學	心理	論理	教育	教育史
練習	教育	教育史	教授法	保育法
地理	教育法令及學校管理法	實地		
本邦地誌	外國地誌	地文	地理汎論	製圖法
歷史	國史	東洋史	西洋史	教授法
國語及漢文	講讀			
外國語	讀方	譯解	文法	
法制經濟				

法制ノ大要	經濟ノ大要			
音樂	唱歌	樂器練習(隨意)		
體操	普通體操	遊戲	教授法	
◎數物化學部				
修身	人倫道德ノ要領	作法	本邦法制ノ大要	教授法
教育學	心理	論理	教育	教育史
練習	教育	教育史	教授法	保育法
數學	教育法令及學校管理法	實地		
算術	代數	幾何(附用器畫)	三角法	教授法
物理				

力	音	熱	光	電氣	磁氣	實驗	教授法
化學	化學通論	無機化學	有機化學	理論化學大要	實驗	教授法	
外國語	讀方	譯解	文法				
手工	木工	金工					
音樂	唱歌	樂器練習(隨意)					
體操	普通體操	遊戲	教授法				
	◎博物家事部						
修身	人倫道德ノ要領	作法	本邦法制ノ大要	教授法			

教育學	心理	論理	教育	教育史	教授法	保育法	教育法令及學校管理法	實地
	練習							
植物	形態	分類	生理	實驗	教授法			
動物	通論	各論	發生	進化	實驗	教授法		
	生理及衛生							
	人身生理	衛生	教授法					
	礦物及地質							
	礦物	地質	實驗	教授法				
家事	衣食住	管理	洗濯	割烹	看護	育兒	家計簿記	教授法
外國語								

明治四十四年
十月四日
修正習字ノ項
追加

讀方 譯解 文法
 物理及化學
 物理ノ大要 化學ノ大要
 音樂
 唱歌 樂器練習(隨意)
 體操
 普通體操 遊戲 教授法
 第十五條 本科各部ニ通シ生徒ヲシテ選修セシムヘキ各學科目ノ程度ハ左ノ如シ
 習字
 楷書 行書 草書 假名 書論 教授法
 圖畫
 自在畫 用器畫 美學大意 美術略史 教授法
 音樂
 唱歌 樂器練習 樂理大意 和聲大意 音樂略史 教授法

裁縫
 裁方 縫方 繕方 教授法
 手藝
 編物 造花 刺繡 紙工 竹工 木工 金工 教授法
 體操
 普通體操 遊戲 薙刀 水泳 教授法
 園藝
 女子ニ適當ナル園藝ノ理論及實習
 手藝ハ前項規定ノ程度中其ノ一部ヲ專修セシムルコトアルヘシ
 第十六條 豫科ノ各學科目ノ每週教授時數ハ修身二時 國語五時 漢文四時 外
 國語五時 數學四時 習字二時 圖畫二時 音樂二時 裁縫三時 體操三時ト
 ス但修身ヲ除クノ外生徒ノ各學科目ニ於ケル素養ヲ參酌シテ其每週教授時數ヲ
 増減スルコトアルヘシ
 第十七條 本科各部ニ屬スル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ノ如シ

國語漢文部每週教授時數表

學 科 目	第一學年				第二學年				第三學年				第四學年(第三學期)	
	身	學	語	文	身	學	語	文	身	學	語	文	身	學
修	二				二				二				二	
教	二				二				二				二	
國	五				六				六				二	
漢	四				四				五				二	
外	四				三				三				一	
歷	二				二				一				一	
習	一				一				一				一	
音	一				一				一				一	
體	三				三				三				二	
選	八				八				八				三	
合	三二				三二				三二				二九	

地理歷史部每週教授時數表

學 科 目	第一學年				第二學年				第三學年				第四學年(第三學期)	
	身	學	理	史	身	學	理	史	身	學	理	史	身	學
修	二				二				二				一	
教	二				二				四				一	
地	三				三				三				一	
歷	四				五				六				二	
國	五				五				一				一	
國	四				三				一				一	
外	一				一				二				二	
法	一				一				一				一	
音	一				一				一				一	
體	三				三				三				二	
選	八				八				八				三	
合	三二				三二				三二				二九	

學科 目	數物化學部每週教授時數表										
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年 (第三學期)							
修身	二	二	二	一							
教育學	二	二	四	一八							
數學	五	四	四	一							
物理學	實驗一回 二	實驗一回 三	實驗二回 三	實驗一回 二							
化學	實驗一回 二	實驗二回 三	實驗一回 二	實驗一回 二							
外國語	四	三	三	一							
手工	一	一	一	一							
音樂	一	一	一	一							
體育	三	三	三	二							
選修科目	八	八	八	三							
合計	三〇	三〇	三〇	二九							

備考 實驗ニ要スル時數ハ本表時數以外トス

博物家事部每週教授時數表

學科 目	博物家事部每週教授時數表										
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年 (第三學期)							
修身	二	二	二	一							
教育學	二	二	四	一八							
植物學	實驗一回 二	實驗一回 三	實驗一回 二	一							
動物學	實驗一回 二	實驗一回 三	實驗一回 二	一							
衛生學	一	二	一	一							
地質學	一	一	二	一							
家事	一	實驗一回 三	實驗一回 三	實驗二回 四							
外國語	四	三	三	一							
物理學	六	一	一	一							
音樂	一	一	一	一							
體育	三	三	三	二							
合計	三〇	三〇	三〇	二九							

選修科目	八	八	八	三
合計	三〇	三〇	三〇	二九

七十

備考 實驗ニ要スル時數ハ本表時數以外トス
第五章 生徒定員、入學、在學及退學

第十八條 生徒ノ定員ハ三百名トス

第十九條 生徒ハ別ニ定ムル所ノ入學者選抜規則ニ依リ選抜ノ上毎年四月入學セシム

第二十條 前條ノ選抜ニ依リ入學スヘキ者ハ身上ニ關シ一切ノ事件ヲ引受クルニ足ルヘキ父兄若クハ親戚等ノ中ニ就キテ保證人ヲ定メ入學ノ際其保證書(書一式)及誓書(書二式)ヲ差出スヘシ

第二十一條 保證人ノ住所遠隔ノ地ニアルトキハ奈良市又ハ其附近ノ地方(京都市大)ニ居住スルモノヲ以テ代理保證人トナスコトヲ得

前項ニ依リ代理保證人ヲ設ケントスルトキハ保證人及代理保證人連署ヲ以テ届出テ校長ノ承認ヲ受クヘシ

明三治
本年
第十四
改一十

第二十二條 生徒ハ本校寄宿舎ニ居住セシム

寄宿舎ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條 本校生徒ニハ事情ニ由リ修學上必要ナル圖書器械ノ類ヲ給與シ又ハ其費用ヲ補給スルコトアルヘシ

給費生ニハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ定額ノ學資ヲ支給ス

第二十四條 一學年中引續キニケ月以上課業ニ缺席シ若クハ缺席スヘキ事情生シタルトキハ其學年間休學ヲ命ス但校長ニ於テ休學ノ必要ナシト認メタルトキハ本文ニ依ラサルコトアルヘシ

第二十五條 在學中左ノ各號ノ一ニ該當シ又ハ該當スト認メタル者ニハ退學ヲ命ス

- 一 疾病ニ罹リ勉學ニ堪ヘサル者
- 二 學業成績不充分ニシテ成業ノ目途立タサル者
- 三 本校教育ノ旨趣ニ適セサル者
- 四 品行修マラサル者

本校規則細則類

七十一

第二十六條 生徒在學中自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ願フ者ハ給費生ニ在リテハ在學中支給セラレタル定額學資及在學中ノ授業費自費生ニ在リテハ在學中ノ授業費ヲ償還スヘシ但シ償還スヘキ學資及授業費ノ全部又ハ一部ヲ文部大臣ヨリ免除セラレタルトキハ此限ニアラス

授業費ノ額ハ別ニ之ヲ定ム

第二十七條

品行修マラサルカ爲メニ退學ヲ命セラレタル者ニハ前條ヲ準用ス

第六章 學業成績評定及卒業

第二十八條

每學期末及每學年末ニ於テ生徒ノ學業ヲ試驗ス但學科日ノ性質ニ依

リ試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ

前項ノ外平素ノ成績考査ノ爲メ臨時試驗ヲ施行スルコトアルヘシ

第二十九條

豫科修了期及本科每學年末ニ於テ平素ノ成績及試驗ノ成績ヲ參按シテ學業成績ヲ評定シ及第落第ヲ定ム

第三十條

校長ハ本科第四學年ノ終ニ於テ學業成績及第二相當シ規定ノ學科ヲ修了シタリト認メタル者ニ第三號書式又ハ第四號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

了シタリト認メタル者ニ第三號書式又ハ第四號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

書式第一號

(用紙美濃紙)

三
三
三
貼入印紙用

保 證 書

族 籍 姓

名

生年月日

右者今般御校ニ入學致候ニ付テハ御校御規則御命令等遵守可爲致ハ勿論本人身上ニ關スル一切ノ事件ハ拙者引受ケ處辨可仕候依テ証書如件

住 所

族籍職業

本人トノ關係

姓

名印

年 月 日

學 校 長 殿

本校規則細則類

七十三

書式第二號 (用紙美濃紙)

印
三錢收
貼入
用紙

誓書

私儀今般御校ニ入學仕候ニ付テハ御校御規則並御命令ヲ遵守仕ルヘキ
ハ勿論卒業ノ上ハ御校卒業生服務規則ヲ遵奉シ精勵國家教育ノ業務ニ
從事可仕候依テ誓書如件

本籍 族稱

何所住戸主何某何女(本人戸主ニ
アラサレハ)
何 某

年月日

學校長殿

書式第三號

校印

卒業證書

族籍

何

某

生年月日

右ハ當校本科何部ノ課程(何科目選修)ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ因テ茲ニ
之ヲ證ス

年月日

學校長位勳學位爵

何

某

番號

本校規則細則類

七十五

書式第四號

(第九條ニ該當スル者ニ授與スル分)

校印

卒業證書

族籍

何

某

生年月日

右ハ當校本科何部中何々ノ課程ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ因テ茲ニ之ヲ
證ス

年月日

學校長位勳學位爵 何

某

番號

二、入學者選抜規則

明治四十二年二月制定

第一條 本校ニ入學スル者ハ師範學校及高等女學校修業年限四箇年以上ノ優等卒業者又ハ當該學年内ニ卒業スヘキ優等生徒ニシテ地方長官ヨリ薦舉セラレタル者タルヲ要ス但シ本文優等生徒ニシテ當該學年内ニ卒業セサルトキハ其薦舉ヲ無効トス

第二條 師範學校又ハ高等女學校ノ優等卒業者又ハ優等生徒ト認ムヘキ者ハ資性善良操行端正ニシテ其ノ學業成績本科最終學年及其前學年ニ於テ其ノ學級ノ及第者中首位ヨリ數ヘテ卒業者ニアリテハ全員ノ四分ノ一生徒ニアリテハ全員ノ六分ノ一ニ至ルマテノ順位ニ在ルモノトス但シ生徒最終學年ノ成績ハ薦舉ノ當時ニ於テ判定ヲ了リタル成績ニ依ル

第三條 學校長ハ毎年薦舉生地方別定員ヲ定メ之ヲ各地方長官ニ通知スヘシ

第四條 學校長ハ薦舉生中ニ就キ地方長官ヨリ送付シタル薦舉書、人物考定書、學業成績表及履歷書並學科及學資ニ關スル志望ヲ參按シテ入學セシムヘキ生徒ヲ選

本校規則細則類

七十七

拔ス

第五條 前條ニ依リ選抜シタル生徒ハ學校長ヨリ關係地方長官ニ通知ス

第六條 選抜ノ通知ヲ受ケタル薦學生ニ對シ本校ニ於テ更ニ體格検査及口頭試験ヲ施行ス

第七條 前條ニ依リ施行スル體格検査ニ於テ左記各項ノ一ニ該當スル者及口頭試験ノ結果學校長ニ於テ本校生徒タルニ適セスト認ムル者ハ選抜ヲ取消スモノトス

一 發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長「センチメートル」ヲ以テ体重「キログラム」ヲ除シタル商〇・二六未滿ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲扁平胸狹小胸若クハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者

二 精神機能ニ障害アル者

三 傳染性眼炎ヲ患フル者又ハ強度ノ近視亂視又ハ弱視ノ者

四 聽官又ハ言語ノ障害著シキ者

五 肺結核其他結核ノ諸兆アル者

六 心臟瓣膜病ヲ患フル者

七 惡性腫瘍腎臟炎糖尿病重症貧血病等ヲ患フル者

八 修學上ニ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

九 畸形ニシテ體操其他ノ授業ニ差支アル者

三、外國人特別入學規程細則

明治四十三年三月制定

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校外國人特別入學規程ニ依リ入學ヲ志願スル者アルトキハ聽講生トシテ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 聽講生ニシテ學科ヲ修了シタル者ニハ其學業ノ成績ニ依リ卒業證書又ハ聽講證書ヲ授與ス

第三條 聽講生ハ左記授業料ヲ納付スヘシ但シ一學年間に休學ヲ命シタル場合ニ於テハ其期間授業料ヲ徴收セス

一、豫科 金貳拾圓 入學ノ際納付スヘシ

二本科 毎年九月當該學年分全額ヲ納付スヘシ
 國語漢文部、地理歴史部(第一、二、三學年各金六拾圓 第四學年 金四拾圓)
 數物化學部、博物家事部(第一、二、三學年各金百圓 第四學年 金六拾圓)
 既納ノ授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セズ

四、學資支給規則

明治四十三年十一月制定

第一條 本校生徒ニ支給スヘキ定額學資ハ甲種一ヶ月金七圓及乙種一ヶ月金四圓ノ二種トス
 第二條 定額學資ノ支給ヲ受クヘキ者及其ノ受クヘキ學資ノ種類ハ本校生徒本科編入ノ際給費志望者中ニ就キ學業及家計ノ情況ヲ參酌シテ之ヲ定ム
 第三條 退學休學又ハ歸郷外泊等ノタメ在校全月ニ滿タサル月ノ學資ハ日割ヲ以テ支給ス此場合ニ於テハ甲種ハ一日金貳拾參錢乙種ハ一日金拾參錢ノ割ヲ以テ計算ス
 第四條 學力優等品行方正ニシテ他ノ模範タルヘキ生徒又ハ多年教職ニ從事シタ

ル者ノ子ニシテ特別ノ事情アル生徒ニハ學資月額金拾貳圓マテ支給スルコトアルヘシ

第五條 學資ハ毎月計算シ翌月十日マテニ之ヲ支給ス

第六條 本科第二學年以下ノ給費生ニシテ特別ノ事情ニ由リ既ニ受ケタル定額學資ノ全額ヲ償還シ自費生タラントヲ欲スル者保証人連署ヲ以テ願出ツルトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

五、本校授業費償還額

明治四十三年十一月制定

一明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程第八條ニ依リ償還セシムヘキ授業費ハ豫科及本科國語漢文部、地理歴史部ニ在リテハ月額金五圓トシ本科數物化學部、博物家事部ニ在リテハ月額金七圓トス但シ休學中ノ分ハ之ヲ除ク
 一明治四十二年文部省令第二十七號女子高等師範學校卒業者服務規則第四條ニ依リ償還セシムヘキ授業費ハ本科國語漢文部及地理歴史部ニ在リテハ金貳百四拾圓トシ數物化學部、博物家事部ニ在リテハ金參百貳拾圓トス

六、寄宿寮規則

明治四十三年四月制定

- 第一條 寄宿寮ハ生徒ヲシテ協同和樂ノ中ニ於テ學業ヲ修習シ德行ヲ練磨シ兼テ家事ヲ實習セシムル所トス
- 第二條 各舍生徒ハ協同シテ炊事湯浴其他舍内一切ノ事項ヲ處辨スルモノトス定期交代ノ方法ニ由リ炊事當番ヲ定メ其氏名ヲ生徒暨ニ届ケ出ツヘシ
- 第三條 各舍生徒中舍長副舍長各一人ヲ置キ一定期間其ノ舍ノ整理ニ任セシメ舍友ノ代表者タラシム
- 第四條 生徒ハ常ニ時間ノ利用ニ注意シ各自學業修習ヲ勉ムヘク毎日特定ノ時間内ハ全寮黙學ヲナスヘシ但シ休業日ノ前日ハ黙學時間ヲ定メス
- 第五條 授業時間及黙學時間ノ外ハ戶外ニ於テ隨意運動ヲナスヲ妨ケス毎日適宜ノ時間ニ於テ成ルヘク運動又ハ唱歌等ヲナスヘシ
- 第六條 休業日及放課後ハ門限マテ外出ヲ許ス
- 第七條 外出スル時ハ其出入時刻及行先ノ場所氏名用務ノ大要ヲ備付ノ帳簿ニ記

入スヘシ

- 第八條 外出時限外臨時ニ外出ノ必要ヲ生シタル時ハ其事由ヲ具シ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ
- 第九條 疾病ニ罹リタルトキハ醫師ノ診斷ニ由リ其病症ノ種類及輕重ニ從ヒテ靜養室ニ入ラシメ或ハ校外ニ於テ療養セシム
- 第十條 自己ノ病氣療養又ハ父母ノ病氣看護ノタメ外泊若クハ歸郷セント欲スル者ハ豫メ時日ヲ定メ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ其旨願出テ校長ノ許可ヲ受クヘシ若シ期滿チテ猶歸寮ノ見込ナキトキハ歸寮日限ニ先チテ更ニ同上ノ手續ヲナスヘシ
- 第十一條 夏季休業中ハ歸郷セシムルヲ常例トス
- 第十二條 春季休業中又ハ冬季休業中歸郷セント欲スル者ハ其理由ヲ具シ校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十三條 休業中歸郷セシテ旅行セント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シ保證人連署ノ上願出テ校長ノ許可ヲ受クヘシ

本校規則細則類

八十三

第十四條 特別ノ事情アル場合ノ外校ノ内外ヲ問ハス金錢ノ貸借ヲ許サス

第十五條 貳圓以上ノ金錢ヲ所有スルトキハ之ヲ生徒監ニ預ケ置クヘシ

第十六條 生徒ニ面會セント欲スル者ハ受附ニ申出テ備付ノ面會簿ニ月日住所氏名職業生徒トノ關係及生徒ノ學年氏名ヲ記入シ生徒監ノ許可ヲ受ケシム

第十七條 寮内ノ時間割ヲ定ムルコト左ノ如シ

事項	時期	起	止
晨	三月一日ヨリ五月末日マテ 九月十一日ヨリ十月末日マテ	午前五時三十分	午前五時
門		午後五時三十分	午後六時
就		午後九時三十分乃至十時	午後九時乃至九時卅分
就		午後九時三十分乃至十時	午後十時乃至十時三十分

七、附屬學校主事職務假規程

明治四十四年四月制定

第一條 主事ハ校長ノ指揮ヲ承ケテ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮シ生徒又ハ兒童

ノ教育ヲ監督シ敎生ノ教育實習ヲ指導ス

第二條 左ノ事項ハ其意見ヲ校長ニ具申スルコトヲ得

- 一 校則ノ制定又ハ改廢ニ關スルコト
- 二 經費豫算ニ關スルコト
- 三 所屬職員ノ服務上ノ規定ニ關スルコト
- 四 敎生ノ修學旅行施行ニ關スルコト
- 第三條 左ノ事項ハ校長ノ指揮ヲ承ケ之ヲ施行スヘシ
 - 一 生徒又ハ兒童ノ募集ニ關スルコト
 - 二 敎科用圖書ノ採定及改正ニ關スルコト
 - 三 臨時休業ニ關スルコト
 - 四 修學旅行施行ニ關スルコト
 - 五 生徒又ハ兒童ニ對シ重大ナル處分ヲナスコト
- 第四條 左ノ事項ハ之ヲ專行スヘシ但シ第一號第二號第六號及第七號ハ其ノ都度校長ニ報告スヘシ

- 一 校務處理ノタメ細則ヲ設クルコト
- 二 所屬職員ノ分掌ヲ定ムルコト
- 三 校外教授遠足其他生徒兒童教育上若クハ教生指導上必要ナル會合ヲ開催スルコト
- 四 臨時ニ教授時間ヲ伸縮スルコト
- 五 尋常ノ事項ニ關シ生徒又ハ兒童ノ保護者ヲ呼出シ又ハ之ト文書ヲ往復スルコト
- 六 生徒又ハ兒童ノ入學退學及轉學等ヲ許可スルコト
- 七 生徒又ハ兒童ノ學業成績ヲ審案シ教科若クハ課程ノ卒業又ハ修了ヲ判定スルコト
- 八 生徒又ハ兒童ニ附屬學校主事若クハ附屬學校ノ名ヲ以テスル在學及學業成績ノ證明書ヲ與フルコト
- 九 學校參觀ヲ許否スルコト

第五條 前諸條ニ掲ケザル事項ハ總テ校長ノ指揮ヲ承ケ之ヲ施行スヘシ

第六條 主事ハ毎月初其ノ前月中ニ於ケル所屬職員ノ出缺勤ヲ調査シ校長ニ報告スヘシ

第七條 主事ハ毎年四月前學年ノ功程及該學年ノ豫程ヲ校長ニ申報スヘシ

八、奈良女子高等師範學校内國旅費支給細則 明治四十三年十二月制定

- 第一條 本校ヨリ支給スル内國旅費ヲ分チテ左ノ四種トス
 - 甲種 校務又ハ學事視察ノ爲メ出張スル者ニ支給ス
 - 乙種 學術研究ノ爲メ出張スル者ニ支給ス
 - 丙種 學術實地指導ノ爲メ出張スル者ニ支給ス
 - 丁種 生徒修學旅行ノ場合ニ支給ス
- 第二條 甲種及乙種旅費ハ左ノ如シ

勅	區	分	瀛車賃	瀛船賃	車馬賃	宿	泊	料	日	當	
		任	一等實費	一等實費	貳拾五錢	甲種	參	圓	拾	圓	壹圓五拾錢
						乙種	參	圓	拾	圓	壹圓五拾錢

本校規則細則類

- 三 公文書類ノ接受發送ニ關スルコト
- 四 職員ノ進退身分及服務ニ關スルコト
- 五 職員ノ勳位ニ關スルコト
- 六 儀式ニ關スルコト
- 七 日誌記録本校一覽等ノ編纂ニ關スルコト
- 八 統計報告類ノ調製ニ關スルコト
- 九 規則細則内規等ノ審査ニ關スルコト
- 十 博覽會共進會及展覽會等ニ關スルコト
- 十一 寄贈品寄附願及褒賞手續ニ關スルコト
- 十二 當直ニ關スルコト
- 十三 衛生ニ關スルコト
- 十四 參觀人ニ關スルコト
- 十五 他係ノ主管ニ屬セサル事務

第五條 會計係ノ主管事務左ノ如シ

- 一 歲出歲入豫算決算ニ關スルコト
 - 二 官有財産及資金ニ關スルコト
 - 三 物品ノ購入賣却及其出納保管ニ關スルコト
 - 四 金銭ノ收入支拂及保管ニ關スルコト
 - 五 土地建物ノ管理營繕其他樹木庭園ノ手入ニ關スルコト
 - 六 人夫傭人請負其他物品ノ供給契約ニ關スルコト
 - 七 給水排水電燈電話暖房瓦斯等ニ關スルコト
 - 八 校内ノ警備取締ニ關スルコト
 - 九 傭人ノ傭罷監督ニ關スルコト
 - 十 校舍ノ洒掃ニ關スルコト
 - 十一 其他會計ニ屬スル一切ノ事務
- 第六條 教務係ノ主管事務左ノ如シ
- 一 學科課程及日課ニ關スルコト
 - 二 試験及成績考查ニ關スルコト

- 三 教室及教具ニ關スルコト
 - 四 教科書及生徒學用品ニ關スルコト
 - 五 生徒ノ募集入學退學及卒業ニ關スルコト
 - 六 生徒ノ學籍ニ關スルコト
 - 七 生徒ノ勤怠調査ニ關スルコト
 - 八 生徒ノ取締及賞罰ニ關スルコト
 - 九 生徒ノ修學旅行及諸所參觀ニ關スルコト
 - 十 生徒ニ係ル統計調査ニ關スルコト
 - 十一 卒業生ニ關スルコト
 - 十二 參考品生徒成績品等ノ陳列及其整理保存ニ關スルコト
 - 十三 其他教務及生徒ニ關スル一切ノ事務
- 第七條 圖書係ノ主管事務左ノ如シ
- 一 圖書印章ノ保管ニ關スルコト
 - 二 圖書ノ整理保存及目錄編纂ニ關スルコト

- 三 圖書ノ閱覽ニ關スルコト
 - 四 圖書ノ貸借出納ニ關スルコト
 - 五 官報雜誌新聞類ノ管理ニ關スルコト
 - 六 其他圖書ニ關スル一切ノ事務
- 第八條 寮務係ノ主管事務左ノ如シ
- 一 生徒ノ訓育及管理ニ關スルコト
 - 二 寄宿舎ノ警備衛生及炊事ニ關スルコト
 - 三 生徒ノ身体檢査及患者統計ニ關スルコト
 - 四 生徒ノ入舎退舎等ニ關スルコト
 - 五 生徒ノ學資ニ關スルコト
 - 六 其他寄宿舎ニ關スル一切ノ事務
- 第九條 二係以上ニ關係アル事項ハ主査係ニ於テ必ス關係係ニ合議スヘシ
- 第十條 事務ノ所屬不明ナルモノ、主管ハ其都度學校長之ヲ指定ス

符號欠缺ノ分ハ物品種目増加ニ從ヒ之ヲ補充ス
 第五條 消耗品ハ會計係一ケ年ノ所要高ヲ豫定シ校長ノ許可ヲ受ケ一回若クハ數回ニ取纏メ購入ノ手續ヲ爲シ之ヲ倉庫ニ藏置シ各部ノ請求ニ應シ支給ノ手續ヲナスヘシ
 第六條 生産又ハ寄贈ニ係ル物品ハ會計係ニ於テ其品名數量及價格若クハ評價ヲ付シ藏置若クハ支給ノ手續ヲナスヘシ
 第七條 各部物品監守者ノ所屬監守區域及物品取扱主任ノ取扱フ物品ノ種目左ノ如シ

部局名	物品監守區域	物品取扱品目
庶務係	校長室、幹事室、會議室、應接室	郵便、切手及端書
教務係	普通教室、教務係室	教務用消耗品
會計係	會計係室及他係ニ屬セサル物品	事務用消耗品
圖書係	圖書係室、圖書閱覽室、書庫	物品取扱主任ヲ置カス
寮務係	生徒監舍、寄宿舍	全上

部局名	物品監守區域	物品取扱品目
地理	全教室	全上
歷史	全教室	全上
物理	全教室	物理實驗用材料及藥品
化學	全教室	化學實驗用材料及藥品
動物	全教室	動物生理實驗用材料及藥品
植物	全教室	植物實驗用材料及藥品
礦物	全教室	物品取扱主任ヲ置カス
家事	全教室	家事實習用材料
圖書	全教室	物品取扱主任ヲ置カス
音樂	全教室	全上
作法	全教室	全上
裁縫	全教室	全上
手工	全教室	手工實習用材料
體操	全教室	物品取扱主任ヲ置カス

本校規則細則類

園藝教室	全教室	園藝實用材料及藥品
附屬高等女學校	全校全部	全校所屬物品
附屬小學校	全校全部	全校所屬物品

第八條 物品監守者又ハ物品取扱主任物品ノ配付ヲ受ケタルトキハ直ニ之レカ記帳ヲ了シ現品ト對照シ所定ノ用紙ニ領收ノ印ヲ捺シ遲滞ナク物品會計官吏ニ返付スヘシ但備品ハ成ヘク其備付場所ヲ監守簿備考欄内ニ摘記シ便宜其所在ヲ明ニスヘク消耗品ニアリテハ其受拂ヲ明確ニスヘシ

第九條 物品監守者交迭シタルトキハ新舊監守者立會ノ上物品監守簿ト現品ヲ照合シ其受繼ヲ了シタル事由及年月日ヲ帳簿ノ餘白ニ記入シ且相互記名捺印スヘシ

第十條 甲物品監守者ノ監守スル物品ニシテ不用ニ屬スルモ乙物品監守者ニ於テ必要ナルモノアルトキハ甲乙監守者ヨリ其旨會計係ニ通告シ相當ノ手續ヲ經テ現品ノ受渡ヲナスヘシ

第十一條 職員轉免ノ場合ニハ其監守ノ專用物品ヲ會計係ニ返付スヘシ

第十二條 物品監守者監守中ノ物品ニシテ自然ニ毀損シ修理又ハ引換ヲ要スルモノアルトキハ直チニ會計係ニ修理又ハ引換ヲ請求スヘシ

會計係ハ前項ニ依リ修理ヲ了シタルトキハ直ニ物品監守者ニ引渡スヘシ

第十三條 物品監守者監守中ノ物品ニシテ不用トナリタルモノハ會計係ニ返付シ其監守簿ニ會計係ノ受領證印ヲ徵シ其事由年月日ヲ詳記スヘシ

第十四條 物品監守者監守物品ノ票札ヲ汚損シ又ハ紛失シタルモノアルトキハ直ニ物品會計官吏ニ通告シ更ニ票札ノ貼付ヲ乞フヘシ

第十五條 物品監守者監守中ノ物品ヲ紛失シタルトキハ其品名數量番號等ヲ取調ヘ始末書ヲ具シ物品會計官吏ヲ經由シテ校長ニ申報スヘシ

第十六條 使用中ノ物品ハ物品會計官吏左ノ各項ニ依リ之ヲ監督スヘシ
 一 備品ハ毎年一回物品出納簿ト各部監守簿ト對照シ更ニ監守簿ト現品トヲ照査スルコト
 二 消耗品ハ毎月一回物品出納簿ト消耗品受拂簿トヲ對照シ更ニ受拂簿ト現在品トヲ照査スルコト

三前項ノ調査ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シタルトキ又ハ物品ノ使用上ニ付意見アルトキハ校長ニ申告シ其處理ヲ求ムルコト

第十七條 不用ニ歸シタル物品又ハ毀損拂ノ物品ニシテ向來所要ノ用途ナシト認メタルモノ若クハ修理使用ノ見込ナキモノハ其處分按ヲ付シ校長ノ決裁ヲ乞フヘシ

第十八條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ナラシムル爲メ左ノ帳簿及ヒ「カード」ヲ設クヘシ

一、備品原簿 本簿ハ備品分類別ニ基キ口座ヲ設ケ學術用器具機械及雜品類ハ部類毎ニ更ニいろは別ニ細分シテ口座ヲ設ケ番號順ニ每品購入年月日價格納入供用在庫ノ別支給及返付年月日ヲ登記シテ備品各個ノ沿革ヲ明ニシ兼テ物品所在ノ索引タラシム

二、備品出納簿 本簿ハ事務用備品學術用機械器具標本等ニ大別シ備品分類別ニ依リ品目毎ニ口座ヲ設ケ品名數量價格番號月日納入等ヲ登記シ又物品監守者ト物品會計官吏トノ受授ヲ明ニス

三、消耗品出納簿 本簿ハ紙類帳簿類筆墨印因類郵便切手類印刷物類薪炭油類雜品類實驗用材料實驗用藥品ニ大別シ品目毎ニ口座ヲ設ケ品名數量價格月日納入等ヲ登記シ又在庫並ニ消費高ヲ明ニス

四、備品「カード」 本票ハ備品一点毎ニ一票ヲ設ケ品目構造價格符號番號月日納入等ヲ記載シ命令ニ基キ備品ヲ物品監守者ニ交付スルトキ本票ニ監守者ヲシテ受領月日ヲ記入捺印セシメ之ヲ各監守者毎ニ區分整理シテ物品監守者ノ責任ヲ明ナラシメ兼テ物品保管ノ現況ヲ明ニス

第十九條 各部物品監守者又ハ物品取扱主任ニ於テハ物品ノ出納監守及取扱ヲ明確ナラシムル爲メ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一、備品監守簿 本簿ハ學術用器具機械標本及普通備品ニ大別シテ口座ヲ設ケ品目數量價格番號及受授ノ月日ヲ明記スヘシ

二、消耗品受拂簿 本簿ニハ消耗品ノ品目毎ニ口座ヲ設ケ數量及受拂ノ年月日ヲ明記スヘシ

三、郵便切手類受拂簿

本簿ハ文書發送取扱者ニ於テ備付シ其受拂ヲ詳細ニ記入スヘシ

第二十條 物品檢閲ヲ分チテ定時臨時ノ二種トス定時檢閲ハ毎年八月臨時檢閲ハ臨時必要ト認メタル場合ニ於テ之ヲ執行ス

第二十一條 物品檢閲委員ハ委員長一名委員若干名トシ學校職員中ヨリ每年校長之ヲ命ス

第二十二條 物品檢閲委員ノ檢閲事項左ノ如シ

- 一、物品保管ノ適否
- 二、備品使用ノ適否
- 三、消耗品消費ノ適否
- 四、物品缺損ノ有無
- 五、帳簿ト現品トノ對照

第二十三條 物品檢閲上在庫物品ニ付テハ物品會計官吏使用中ノ物品ニ付テハ物品監守者消耗品ニ付テハ物品取扱主任ニ於テ其保管監守取扱ニ屬スル現品及帳

簿等ヲ取揃ヘ之レカ點檢ヲ受ケ檢閲上委員ノ質問ニ對シ答辨スヘシ

第二十四條 物品檢閲委員ニ於テ檢査上故障ナシト認定シタルトキハ簿冊ニ檢閲年月日ヲ記入シ委員長之ニ署名捺印スヘシ

檢査上故障アリタルトキハ當該責任者ヨリ始末書ヲ徴スヘシ

第二十五條 物品檢閲委員其檢閲ヲ了シタルトキハ檢査ノ顛末ヲ具シ意見ヲ付シ十五日以内ニ委員長ヨリ校長ニ申報スヘシ

第二十六條 本細則ニ據ル諸帳簿等ハ別紙様式ニ據リ調製スヘシ

第二十七條 圖書ノ出納ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

十一、圖書閱覽規則

明治四十三年十二月制定

第一條 教官講師ハ本校書庫ニ藏セル圖書ヲ檢索シ教官閱覽室内ニ於テ之ヲ閱覽スルコトヲ得閱覽濟ノ上ハ必ス原位置ニ納メ置クヲ要ス

第二條 教授ニ使用センカ爲ニ圖書ヲ携出セントスル場合ハ必ス係員ノ承認ヲ經ヘシ使用了リタルトキハ速カニ原位置ニ納メ係員ニ通告スヘシ

第三條 生徒ハ圖書目錄ニ依リ所要ノ書名ヲ閱覽室備付ノ証明用紙ニ記入シ圖書係ニ差出シテ該圖書ヲ受取り閱覽室内ニ於テ之ヲ閱覽スヘシ閱覽済ノ上ハ該圖書ヲ圖書係ニ返付スヘシ

第四條 教授助教及講師ハ十部五十冊ヲ限リ其他ノ職員ハ五部二十冊ヲ限リ本校生徒ハ受持教官ノ證印ニ依リ二部五冊ヲ限リ主幹ノ承認ヲ經テ圖書ヲ借用スルコトヲ得

第五條 特別教室備付ノ圖書ニ就テハ別ニ定ムル所ニ依ル

第六條 圖書ヲ借用セントスル者ハ係員ニ就キ圖書借用證用紙ニ記入ノ上之ヲ受取ルヘシ

第七條 借用セシ圖書ハ總テ他人ニ轉貸スルコトヲ許サス

第八條 借用シタル圖書ハ毎年七月一日ヨリ全十五日迄ノ間ニ悉皆返納シ又夏季休業中ノ借用ニ係ル分ハ其休業末日マテニ必ス返納スヘシ但シ時宜ニ依リ臨時ニ返納セシムルコトアルヘシ

第九條 借用シタル圖書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其事實ヲ詳記シタル書面ヲ圖

書係ニ差出スヘシ

第十條 圖書閱覽室ニ於テハ靜肅ヲ守リ音讀スルコトヲ許サス

第十一條 圖書閱覽時限ハ時々室内ニ揭示スヘシ

十二、附屬學校職員出張ニ關スル方針

明治四十四年六月校長訓示

一 當校教育上ノ必要ニ應シ兼テ附屬學校職員ノ見聞ヲ擴ムル爲メ毎年附屬學校職員若干名ヲ各地方へ出張セシム
其場合左ノ如シ

- 一 他ノ學校ニ於ケル教授訓育及之ニ關スル施設等ヲ視察調査セシムル爲メ
- 二 特種ノ教育問題ニツキ參考材料ヲ蒐集スル爲メ
- 三 郷土史誌ニ關スル材料蒐集ノ爲メ
- 四 地方普通教育一般ノ情況ヲ視察セシムル爲メ
- 五 教授用具調査ノ爲メ
- 六 本校生徒修學旅行附添ノ爲メ

- 七 附屬學校生徒又ハ兒童引率ノ爲メ
 - 八 學術研究ノ爲メ
 - 九 其他特ニ必要アルトキ
 - 二 本校生徒教育實習ノ爲ニスル修學旅行ニ附添ハシムルトキハ本校教授ノ指揮ヲ受ケ生徒指導監督ノ任ヲ分掌セシム
 - 本校生徒學術研究ノ爲メニスル修學旅行ニ附添ハシムルトキハ本校教官ノ指導監督事務ヲ補佐セシメ且ツ自ラ學術研究ヲナサシム
 - 三 附屬學校生徒又ハ兒童引率ノ爲メ出張セシムル場合ニ關シテハ別ニ訓示ス
 - 四 各附屬學校職員ニハ成ルヘク順次ニ出張ヲ命シ若干ノ年月間ニ於テ其ノ全員ニ及ホサンコトヲ期スト雖トモ調査事項ノ種類校務ノ緩急經費ノ都合等ニ由リ必スシモ然ル能ハサルコトアルヘシ
- 備考
- 本年度ニ於テハ成ルヘク多數ノ職員ヲシテ他ノ比較的優良ナル學校ノ教授訓育其他諸般ノ施設ヲ參觀シテ將來ノ研究ニ資セシメ兼テテ近接地方ニ於ケル地理

歴史ノ資料ヲ實見セシムル爲メ短日數間奈良縣下及近府縣下へ出張セシム

十二、附屬學校職員出張ニ關スル心得

明治四十四年六月校長訓示

- 一 附屬學校職員出張ヲ命セラレタルトキハ出來得ルタケ時間ヲ利用シ命セラレタル事項ニツキ視察又ハ調査ヲナスノミナラス務メテ自己ノ見聞ヲモ擴ムルコトヲ圖ルヘシ
- 二 視察又ハ調査スヘキ事項ニツキテハ出張前出來得ルタケ調査ヲナスヘシ
- 三 視察又ハ調査スヘキ事項ハ成ヘク之ヲ多方面ヨリ觀察調査シ其真相ヲ得ルコトヲ旨トスヘシ
- 四 當校ヨリ出張ヲ命スル所以ハ當校ノ教育ヲ裨益スヘキ材料ヲ蒐集スルニアリテ地方ノ教育ヲ監督スルカ爲ニアラス故ニ出張ヲ命セラレタルモノハ此意義ニ於ケル態度ヲ持シ成ヘク他ノ長所ヲ見聞スルコトヲ主トスヘシ
- 五 視察後先方ノ請求ニ應シテ適宜批評ヲナスモ差支ナシト雖モ務メテ慎重ナランコトヲ要ス

六歸校後校長ニ提出シタル報告書ハ之ヲ回覽ニ付シ又ハ特ニ報告會ヲ開キテ之ヲ報告セシメ他ノ職員ノ參考ニ供スルコトアルヘシ但報告書及報告會ニ於テナセ
ル報告及批評ハ校長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ發表スルコトヲ許サス

◎職員

●校長 野尻 精一 兵庫縣

●教授 正五位勳四等 高橋 章臣 東京府

植物英語 本科博物家事部主任 文部省視學委員 從五位勳五等 清水興三郎 奈良縣

(外國留學中) 正六位勳四等理學士 雀部 顯宜 北海道

(外國留學中) 正六位文學士 藤堂忠次郎 兵庫縣

附屬高等女學校主事

(明治四十四年十二月末調)

(外國留學中) 從六位文學士 野田 義夫 福岡縣

(外國留學中) 從六位文學士 小日向定次郎 東京府

修身漢文 本科國語漢文部主任 從六位 須藤 求馬 德島縣

物理手工英語 本科數物化學部主任 正七位理學士 石野 又吉 石川縣

教育學 附屬小學校主事 正七位 眞田 幸憲 秋田縣

動物生理及衛生英語 正七位理學士 桑野 久任 東京府

國語 正七位文學士 鹽井 正男 東京府

修身裁縫 寮務係主幹 生徒監 正七位 錦織 竹香 島根縣

歷史英語 圖書係主幹 正七位文學士 長 壽吉 東京府

歷史國語 本科地理歷史部主任 正七位 水木要太郎 愛媛縣

歷史國語 正七位文學士 佐藤 小吉 山形縣

化學 正七位理學士 河內山 幸作 山口縣

地理地質及礦物 從七位理學士 清野 信雄 兵庫縣

園藝 從七位農學士 吉川 宏 靜岡縣

職員

教育學

英語

修身 豫科主任

圖畫

● 助教授

從七位文學士

從七位

陸軍步兵少尉

從七位文學士

本庄 精次 兵庫縣
村島 理平 岡山縣
鯉川 龍夫 富山縣
横山常五郎 長野縣

教諭

教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

三井 政善 山梨縣

春日今朝藏 長野縣

越智 キヨ 山形縣

石澤 吉磨 山形縣

梅村喜一郎 愛知縣

玉木 正行 山口縣

田中寅之助 大府

大塚 治六 靜岡縣

三井ヒサエ 香川縣

數學

家事

物理及化學

國語

● 助教授

兼教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

兼教諭

三井 政善 山梨縣

春日今朝藏 長野縣

越智 キヨ 山形縣

石澤 吉磨 山形縣

梅村喜一郎 愛知縣

玉木 正行 山口縣

田中寅之助 大府

大塚 治六 靜岡縣

三井ヒサエ 香川縣

英語

習字

園藝

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

寮務係

職員

音樂

裁縫

体操

音樂

体操

園藝

物理手工

漢文

漢文

數學

國語

地理、歷史、法制、經濟

訓導

助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

兼助教諭

幾尾 純 福岡縣

大坪 ノブ 群馬縣

菊澤 三壽 三重縣

宮内 薫 愛媛縣

高橋キヤウ 香川縣

久常 健治 岡山縣

登阪 一 山形縣

細田 謙藏 奈良縣

吉田 増藏 福岡縣

小野新太郎 大府

春日 政治 長野縣

西田與四郎 奈良縣

囑託

裁縫
薙刀
圖書

助手補

化學
植物
動物生理及衛生

書記

庶務係主任兼教務係 官報報告主任

會計係主任 會計主任 物品會計官吏

會計係兼寮務係

會計係

圖書係

陸軍一等計手
七等

長尾 糸 岡山縣

新井 つた 兵庫縣

伊井彌之輔 富山縣

安達久四郎 山形縣

森田 勝造 奈良縣

西山 熊夫 三重縣

茂利重太郎 富山縣

安木 物外 奈良縣

上田 鼎三 京都府

北朴木清司 奈良縣

筒井 太熊 奈良縣

山本安太郎 奈良縣

大橋利三郎 奈良縣

尾崎 律 奈良縣

廣瀬信太郎 奈良縣

松川乙治郎 奈良縣

田中 作助 東京府

芝 葛敏 奈良縣

大森正三郎 奈良縣

北條九郎祐 奈良縣

白井 英三 奈良縣

石川 マヤ 島根縣

成瀬勝千代 滋賀縣

二宮 紀能 奈良縣

雇員

會計係

會計係

會計係

庶務係

會計係

圖書係

會計係

圖書係

教務係兼庶務係

寮務係

地理歴史教室附

植物教室附

陸軍歩兵軍曹

勳八等

職員

高熊	高長	高堂	師澁	師受	師秋	師詳	高高	高山	師岡	師崎	高荷
女本	女崎	女島	範賀	範媛	範田	範馬	女松	女口	範山	範玉	女谷
田	田	河	奥	友	西	茂	森	江	中	竹	吉
宮	中	野	村	松	宮	木	以	本	原	内	田
ニ		ハ	壹	龜	ア	み	登	セ	菊	久	
シ	文	ル	め	代	ヤ	き	代	ツ	枝	代	絹
(平熊)	(土長)	(平廣)	(平澁)	(土受)	(土秋)	(平詳)	(平香)	(平山)	(土岡)	(土崎)	(土大)
(民本)	(民崎)	(民島)	(民賀)	(民媛)	(民田)	(民馬)	(民川)	(民口)	(民山)	(民玉)	(民谷)
高兵	高堂	師京	高兵	高三	高酒	高福	高札	高水	師廣	師大	
女庫	女島	範都	女庫	女重	女田	女岡	女輕	女戸	範島	範阪	
田	田	加	奥	岡	西	森	佐	小	堤	田	
代	中	舍	山		牧	山	々	林		上	
	靜	千	去	よ	ユ	ヨ	木	き	コ	ヤ	
愛	子	代	野	し	キ	ネ	ミ	ス	ト	ス	
(土佐)	(平岡)	(平京)	(平三)	(平三)	(土新)	(土福)	(土北)	(平茨)	(土愛)	(土山)	
(族賀)	(民山)	(民都)	(民重)	(民重)	(族瀧)	(族岡)	(族海)	(民城)	(族媛)	(族口)	

國語漢文部

第二學年

師大	高徳	高山	高松	高石	師和	高津	高佐	師東	高兵	師熊	高三
範阪	女島	女形	女本	女川	範山	女山	女賀	範京	女庫	範本	女重
横	保	新	岩	宮	木	中	田	田	吉	大	服
山	科	關	崎	本	村	山	代	丸	岡	村	部
菊		マ	文		ス	茂	イ	ミ	美	ミ	す
枝	正	ツ	江	安	エ	世	ク	ネ	津	ツ	ッ
(土福)	(土徳)	(平山)	(平長)	(平石)	(平和)	(平岡)	(平佐)	(平千)	(土京)	(土熊)	(平三)
(族井)	(族島)	(民形)	(民野)	(民川)	(民山)	(民山)	(民賀)	(民庫)	(族部)	(族本)	(民重)
高神	高山	高石	師奈	師福	師岩	高福	師明	師福	高廣	高松	一京
女川	女梨	女川	範良	範井	範手	女岡	範石	範岡	女島	女山	高都
吉	金	堀	井	廣	菊	安	長	武	田	河	華
井	子		上	部	池	西	井	吉	中	東	岡
せ	の		マ	ミ	ソ	ミ	あ	ム	ム	ア	綾
い	る	恒	サ	ラ	ノ	キ	い	ツ	ノ	イ	子
(土神)	(平山)	(平石)	(平奈)	(平福)	(土岩)	(平福)	(平兵)	(平大)	(平福)	(平愛)	(平大)
(族川)	(民梨)	(民川)	(民良)	(民井)	(族手)	(民岡)	(民庫)	(民分)	(民岡)	(民媛)	(民慶)

博物家事部

數物化學部

高水	高岩	高沖	師佐	師靜	高愛	師岩	高山	師松	師部
女戸	女手	女繩	範賀	範岡	女知	範手	女中	範本	範岡
聽	白	木	新	山	中	岡	小	石	數
講	土	村	嘉	本	根	本	原	川	物
生	よ	靜	喜	サ	良	良	キ	ヲ	化
毅	ね	江	操	ヲ	惠	ね	ヨ	ハ	學
如									部
	(平	(土	(土	(平	(平	(平	(平	(平	(平
	茨	岩	沖	佐	靜	愛	岩	廣	長
	城	族	族	賀	岡	知	手	島	野
	民	手	繩	民	民	民	民	民	民
	取	取	取	取	取	取	取	取	取

師宮	師熊	師和	師京	高西	高泉	師英	高久	師福	高新
範城	範本	範山	範都	女伯	女南	範城	女米	範岡	女濱
菅	湯	阪	安	草	川	大	西	樋	菊
井	淺	本	田	地	岸	關	村	口	地
き	レ	え	す	志	宇	ふ	ナル	リ	イ
よ	ッ	ま	る	の	乃	く	ル	ン	ツ
じ									
(平	(土	(平	(平	(平	(平	(平	(土	(平	(平
宮	熊	和	兵	河	大	茨	福	福	新
城	本	山	民	民	民	民	民	民	民
民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
取	取	取	取	取	取	取	取	取	取

高富	高山	高函	高清水	師靜	高島	高佐	高高	高清水	高大	高札	高興	師德
女山	女形	女館	女谷	範岡	女取	女賀	女松	女谷	女分	女親	女謝	範島
安	仲	神	華	市	森	佐	荒	赤	是	福	山	露
江	野	谷	岡	川	久	久	井	羽	久	田	本	木
空	ま	フ	文	初	熊	間	マ	吉	ミ	シ		美
志	き	ミ	子	二	子	松	ツ	子	サ	ツ		久
(平	(平	(平	(平	(平	(平	(土	(平	(平	(土	(平	(平	(平
岐	山	北	大	靜	鳥	佐	谷	長	大	北	京	德
民	民	海	阪	岡	取	賀	民	野	分	海	都	島
取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取

三東	師滋	高奈	師明	高山	高福	師佐	師松	師奈	高福	師德	一東	高松
高京	範賀	女良	範石	女形	女井	範賀	範本	範良	女井	範島	女箭	女本
福	村	田	鶴	石	久	水	佐	荒	寺	後	松	山
永	田	村	部	川	野	智	藤	井	島	藤	本	本
さ	ゆ	千	美	を	春	ト	千	八	き	キ	な	晴
ね	き	世	尾	孝	榮	マ	の	重	の	エ	を	
(平	(平	(土	(土	(平	(土	(平	(平	(平	(土	(平	(土	(平
三	滋	奈	兵	山	福	佐	長	京	福	德	東	長
民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民
取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取	取

生徒

高愛	高高	高由	高長	高佐	高三	高岐	高山	高新	高名	高宇	師岡	師橋	高福
女知	女知	女中	女岡	女賀	女重	女卓	女形	女鴻	女墨	女島	範山	範木	女井
三宅	三宮	佐脇	真柄	津田	竹島	棚橋	高橋	吉原	河本	河野	大賀	林	稻生
吉子	江代	千代	オ	ウ	コ	た	キ	ヨ	志	榮	野	イ	貞
(平愛)	(士高)	(平香)	(平新)	(平佐)	(平三)	(平岐)	(平山)	(平新)	(士愛)	(平愛)	(平岡)	(平粉)	(士橋)
(民知)	(族知)	(民川)	(民海)	(民賀)	(民重)	(民阜)	(民形)	(民鴻)	(族知)	(民媛)	(民山)	(民水)	(族井)

百廿一

高彦	高梅	高上	高壽	高登	高巽	高和	師福	高櫻	高島	高大	二京	高櫻	高大
女根	女田	女田	女岡	女澗	女足	女山	範岡	女井	女取	女分	女第	女井	女垣
水谷	北村	真山	佐藤	長崎	多胡	玉井	高橋	吉川	加村	河越	大野	西山	石水
とみ	園	ゆ	旭	光	シ	種	マ	ヒ	サ	よ	淑	ひ	て
(士滋)	(平大)	(平長)	(平山)	(士北)	(士島)	(平和)	(士福)	(平奈)	(平島)	(平島)	(士愛)	(平奈)	(士岐)
(族賀)	(民假)	(民野)	(民形)	(族道)	(族根)	(和歌)	(族岡)	(民真)	(民取)	(民取)	(族知)	(民真)	(族阜)

國語漢文部

第一學年

王梅 聽講生 (清國人)

師大	高徳	高岡	高富	高松	高西	高石	高徳	高徳
範阪	女基	女山	女松	女江	女寺	女川	範第	女島
菅沼	久富	佐伯	藤木	松崎	倉橋	田島	渡邊	新居
美子	タカ	トモ	ヒデ	ミキ	楓	な	う	ト
(士岡)	(平山)	(士島)	(士香)	(士島)	(平岡)	(平石)	(平愛)	(士徳)
(族山)	(民口)	(族費)	(族川)	(族根)	(民山)	(民川)	(民知)	(族島)

博物家事部

李巽如 (清國人)

高高	高徳	高清	師福	高神	高山	高千	高富
女知	女岡	女谷	範岡	女川	女口	女葉	女山
森澤	酒井	駒井	藤田	山田	植田	神田	大野
小静	喜久	モト	ヨシ	キク	タマ	イ子	ナヲ
(平高)	(士山)	(士大)	(士福)	(平神)	(平山)	(士鹿)	(平密)
(民知)	(族形)	(族阪)	(族岡)	(民川)	(民口)	(族島)	(民山)

百二十

生徒

師三	師松	高爾	師明	師千	高浦	高山
継原	範本	女館	範石	範葉	女和	女梨
祐	甲	松	高	渡	石	岩
源	田	野	貫	邊	塚	下
ト	ツ	マ	フ	ち	み	も
キ	節	エ	ミ	せ	を	る
(平廣)	(平長)	(平北)	(土福)	(平千)	(平崎)	(平山)
(民島)	(民野)	(民道)	(族島)	(民榮)	(民玉)	(民梨)

博物家事部

黄

釣

(清國人)

聽講生

高岡	高高	高丸	高梅
女崎	女松	女龜	女田
鈴	盛	三	麻
木	澄	野	セ
空	絢	マ	ス
し	子	エ	キ
(平愛)	(平香)	(平香)	(平大)
(民知)	(民川)	(民川)	(民殿)

朱

徴

(清國人)

高宇	高四	高長	高久	高清	高山	高岡
和	日	女野	留	水	女胎	女山
女島	女市	女野	女米	女谷	女胎	女山
三	駒	牧	田	吉	西	井
好	木	野	代	松	村	上
政	根	み	セ	千	ユ	艶
(平愛)	(土三)	(平長)	(平福)	(平大)	(土島)	(平岡)
(民媛)	(族重)	(民野)	(民岡)	(民殿)	(族根)	(民山)

師大	高小	師青
範淑	女樽	範森
諏	島	三
訪	キ	橋
弘	ヤ	ふ
(土京)	(平北)	(土青)
(族都)	(海道)	(族森)

百廿三

高静	高鶴	高德	師岩	師宮	師群	高神	高丸	高高	高長	高和	高長	
女岡	女岡	女島	範手	範城	範馬	女川	女龜	女岡	女崎	地理	高和	高長
永	加	林	伊	菅	内	中	田	小	伊	赤	神	
井	藤	マ	藤	原	田	村	中	栗	東	城	保	
ヤ	テ	サ	キ	ふ	く	サ	マ	さ	ツ	ふ	テ	
ス	イ	エ	ヲ	み	に	ト	ス	エ	カ	川	ッ	
(土静)	(平新)	(平德)	(平岩)	(平宮)	(平群)	(平神)	(平香)	(平富)	(平長)	(平和)	(平新)	
(族岡)	(民鴻)	(民島)	(民手)	(民城)	(民馬)	(民川)	(民川)	(民山)	(民崎)	(民川)	(民鴻)	

高德	師宮	高彦	高筑
女基	範城	女根	女紫
中	片	沼	馬
村	岡	波	場
元			ヒ
子	税	信	エ
(平山)	(土奈)	(平滋)	(平福)
(民口)	(族其)	(民賀)	(民岡)

一東	師岐	高石	師秋	高福	高福
高京	範阜	女川	範田	女井	女井
末	九	中	土	尾	太
弘	鬼	島	屋	崎	田
杉	つ	ハ	ミ	登	道
枝	る	ナ	ヤ	美	子
(土大)	(土岐)	(平石)	(平秋)	(平福)	(土奈)
(族分)	(族阜)	(民川)	(民田)	(民井)	(族其)

高成	女美	廣江	フ	ミ	ノ
					(平佐)
					(民賀)

百廿二

道府縣	出身	學校	人員	道府縣	出身	學校	人員
長野	縣立	松本高等女學校	二	秋田	縣	師範學校	二
全	縣立	上田高等女學校	一	京都	府	立第一高等女學校	三
全	長野市	立高等女學校	一	全	府	立第二高等女學校	二
北海道	道廳	立札幌高等女學校	二	全	府	立第二高等女學校	一
全	道廳	立函館高等女學校	二	大阪	府	立第一高等女學校	一
全	道廳	立小樽高等女學校	一	全	府	立第二高等女學校	一
宮城	宮城縣	師範學校	四	大阪	府	立女子師範學校	四
岩手	岩手縣	師範學校	三	全	府	立梅田高等女學校	五
全	縣立	高等女學校	一	全	府	立清水谷高等女學校	四
青森	青森縣	師範學校	一	兵庫	郡	立泉南高等女學校	二
山形	縣立	山形高等女學校	四	全	縣	立泉南高等女學校	三
全	縣立	鶴岡高等女學校	四	奈良	縣	立女子師範學校	二
全	縣立	酒田高等女學校	一	全	縣	立奈良高等女學校	三

奈良	縣立	櫻井高等女學校	二	石川	縣	立高等女學校	五
三重	縣立	高等女學校	三	富山	縣	立富山高等女學校	二
全	四日市	市立高等女學校	三	全	縣	立高岡高等女學校	一
愛知	愛知縣	第二師範學校	二	和歌山	縣	立和歌山縣師範學校	二
全	縣立	高等女學校	二	全	縣	立和歌山高等女學校	四
全	市立	名古屋高等女學校	一	鳥取	縣	立鳥取高等女學校	二
全	岡崎町	立高等女學校	一	全	郡	立西伯高等女學校	一
滋賀	滋賀縣	女子師範學校	三	島根	縣	立松江高等女學校	一
全	縣立	彦根高等女學校	二	全	縣	立松江高等女學校	一
岐阜	岐阜縣	師範學校	二	全	鹿	足郡立高等女學校	一
全	縣立	大垣高等女學校	二	岡山	縣	立岡山縣女子師範學校	二
全	縣立	岐阜高等女學校	一	全	縣	立岡山高等女學校	三
福井	福井縣	師範學校	一	全	縣	立津山高等女學校	一
全	縣立	福井高等女學校	五	全	西	大寺町立高等女學校	一

生徒

道府縣	出身	學校	人員	道府縣	出身	學校	人員
廣島	廣島縣三原女子師範學校	二	長崎	縣立高等女學校	三		
全	縣立廣島高等女學校	一	福岡	福岡縣女子師範學校	四		
全	私立山中高等女學校	三	全	縣立福岡高等女學校	二		
山口	縣立山口高等女學校	二	全	縣立久留米高等女學校	二		
全	縣立德基高等女學校	二	全	私立筑紫高等女學校	一		
德島	德島縣女子師範學校	二	大分	縣立大分高等女學校	二		
全	縣立高等女學校	三	佐賀	佐賀縣師範學校	三		
香川	縣立高松高等女學校	四	全	縣立佐賀高等女學校	三		
全	縣立丸龜高等女學校	二	全	私立成美高等女學校	一		
愛媛	愛媛縣師範學校	二	熊本	熊本縣師範學校	二		
全	縣立松山高等女學校	一	全	縣立高等女學校	一		
全	縣立宇和島高等女學校	二	鹿兒島	鹿兒島師範學校	一		
高知	縣立高等女學校	三	全	縣立高等女學校	一		

沖繩縣	立高等女學校	二	臺灣	臺灣總督府高等女學校	二
計	二百十九	師範	一	四	七
		高女	一	四	七

●生徒本籍別

(明治四十四年十月三十一日現在)

道府縣	國語漢文部	地理歴史部	數物化學部	博物家事部	計
北海道	二	一	一	二	六
東京	一	一	一	一	二
京都	四	一	二	一	六
大阪	一	二	三	二	八
神奈川	一	一	一	三	四
兵庫	一	一	二	一	三
長崎	二	一	一	一	三
新潟	四	一	一	一	六

生徒

生徒

山口	廣島	岡山	島根	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	岩手	福島	宮城
1	2	3	2	3	1	1	3	1	4	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1
1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	4	1	2
4	2	4	2	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1
5	5	9	4	3	2	5	6	2	8	1	4	1	4

百冊一

長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城	千葉	群馬	埼玉	道府縣
4	4	3	1	1	3	4	2	1	1	1	1	1	國語漢文部
2	2	1	1	3	1	1	3	1	1	1	2	1	地理歴史部
1	1	1	1	2	2	1	1	1	2	1	1	1	數物化學部
3	1	1	3	1	2	2	1	1	1	2	1	2	博物家事部
9	6	5	4	6	8	8	6	1	4	3	3	2	計

百三十

種	生徒平均年齡			
	最高	最低	平均	
國語漢文部	第一學年	二二、六	一七、六	一九、二
	第二學年	二四、九	一八、九	二〇、九
	第三學年	二六、二	一九、一	二二、七
地理歷史部	第一學年	二一、六	一七、八	一九、一
	第二學年	二二、六	一九、五	二〇、六
	第三學年	二三、七	一九、九	二一、七
數物化學部	第一學年	二〇、〇	一七、一〇	一九、三
	第二學年	二六、五	一九、二	二一、六
	第三學年	二五、六	一九、八	二三、二
博物家事部	第一學年	二一、一	一八、〇	一九、一〇
	第二學年	二二、〇	一八、一〇	一九、一一
	第三學年	二三、八	一九、一一	二一、八

(明治四十四年十月卅一日調)

●敷地建物

(明治四十四年十二月末調)

種	敷地	坪	數	價	格	●主要建物		
						名稱	種類	棟數
敷地	坪		數	價	格	名稱	種類	棟數
本校	坪		數	價	格	本館	木階建造	一
附屬高等女學校	坪		數	價	格	第一號館	木階建造	二
附屬小學	坪		數	價	格	第二號館	木階建造	二
	坪		數	價	格	第三號館	木階建造	二
	坪		數	價	格	第四號館	木屋建造	二
	坪		數	價	格	階上講堂	階上講堂	
	坪		數	價	格	階下事務室	階下事務室	
	坪		數	價	格	第一號館	階上植物教室等	
	坪		數	價	格	第二號館	階上動物教室等	
	坪		數	價	格	第三號館	階上國語漢文、歷史教室等	
	坪		數	價	格	第四號館	階下地理、礦物教室等	
	坪		數	價	格	第二號館	化學教室、數學教室	
	坪		數	價	格	第四號館	物理教室	

●主要建物

(明治四十四年十月末調)

敷地建物

百卅五

敷地建物

校小附	校學女等高屬附						校	
本館	寄宿寮	小便溜所	音樂教室及樂器練習室	体操教室兼講堂	職員室	本館	寄宿寮	倉庫
二階木造	平屋木造	平屋木造	平屋木造	平屋木造	平屋木造	二階木造	平屋木造	三階木造
一	九	一	二	一	一	一	一	一
三三九五〇	四三五四四	六〇〇	三一五〇	七〇〇〇	六五〇〇	二七五〇〇	一〇七二五	二〇〇〇
二八、八五七五〇〇	一六、八九一二八六	四八六一〇〇	一、九六〇四〇〇	四、三三五六〇〇	三、七七七八七〇	二五、五四〇九三〇	五二、六三三七五〇	五、九三三七二二
四四、六九一五四	全全	全全	全全	全全	全全	四四、九五一五八	四三、五三二	四三、一四三二一
教室職員室其ノ他						教室會議堂其ノ他		

百卅七

本

小使溜所	手工室	温室	附屬室	園藝室	體操教室	音樂教室	第六號館	第五號館	名稱
平屋木造	平屋木造	平屋木造	平屋木造	平屋木造	平屋木造	平屋木造	二階木造	平屋木造	種類
一	一	一	一	一	一	一	一	一	棟數
一六二五	一五〇〇	二二五〇	三〇〇〇	九八〇〇	四四〇〇	一一一五〇〇	一〇一五〇	坪數	坪數
一、〇三四二一四	四八〇〇〇〇	一、七八一二七六	一、〇八四六〇〇	七、一七四〇四〇	三、四七〇五四五	一三、七一一一四五	七、六四九九六〇	建築費	建築費
四四、二四三二一	四四、二二二五六	四四、二二二五六	四三、一〇二〇	四三、二二二八	四四、八三〇四	四四、八三〇四	四三、二二二八	竣工年月日	竣工年月日
							習字、圖書裁縫英語教室等	家事教室及會議堂	備考

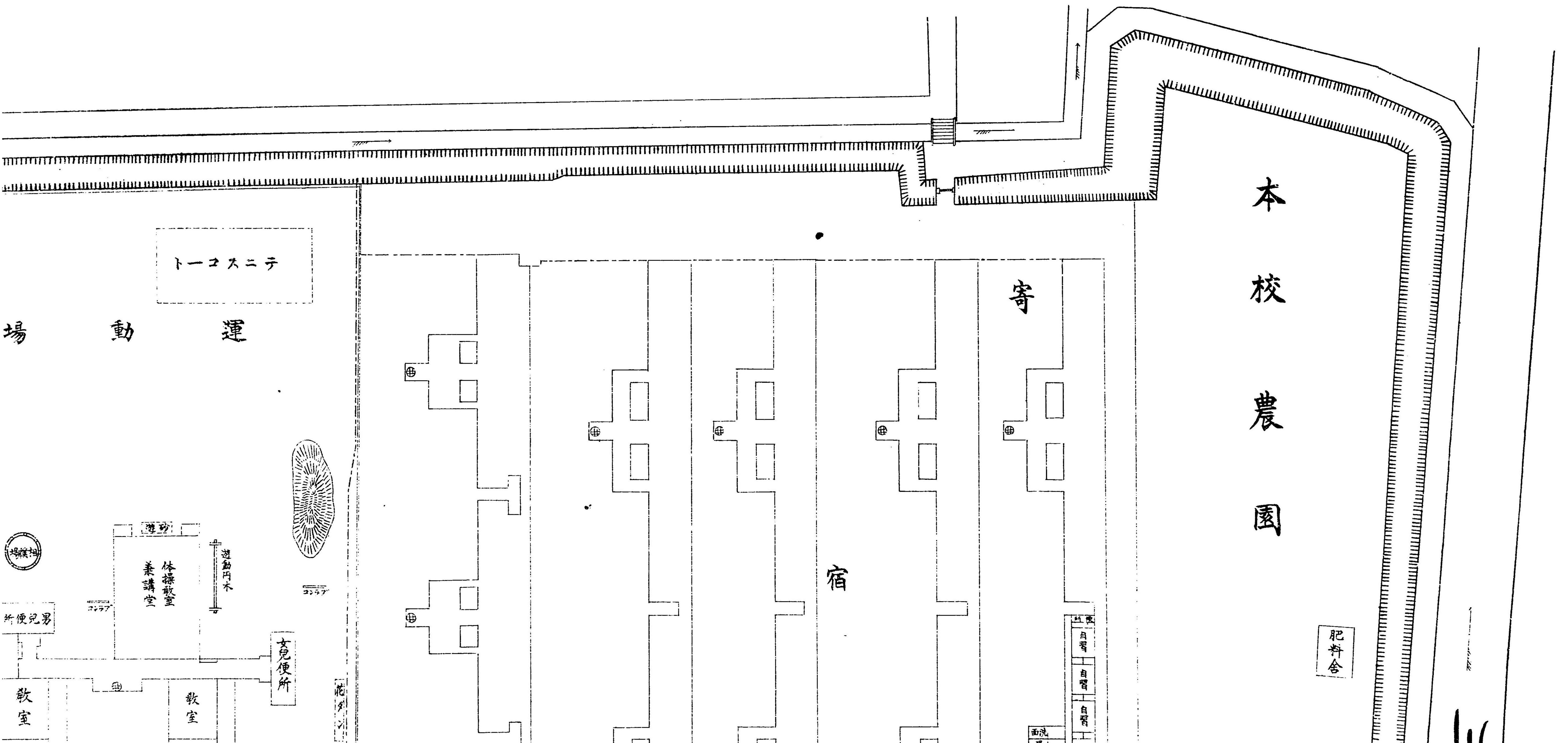
百卅六

附屬小學

名稱	種類	棟數	坪數	建築費	竣工年月日	備考
兼體操教室講堂 小使溜所	木平屋建造	一	七三〇〇坪	四、一八六〇〇	四三、九、一五	
二階建造		一	五二五	二六二五〇〇	全全	

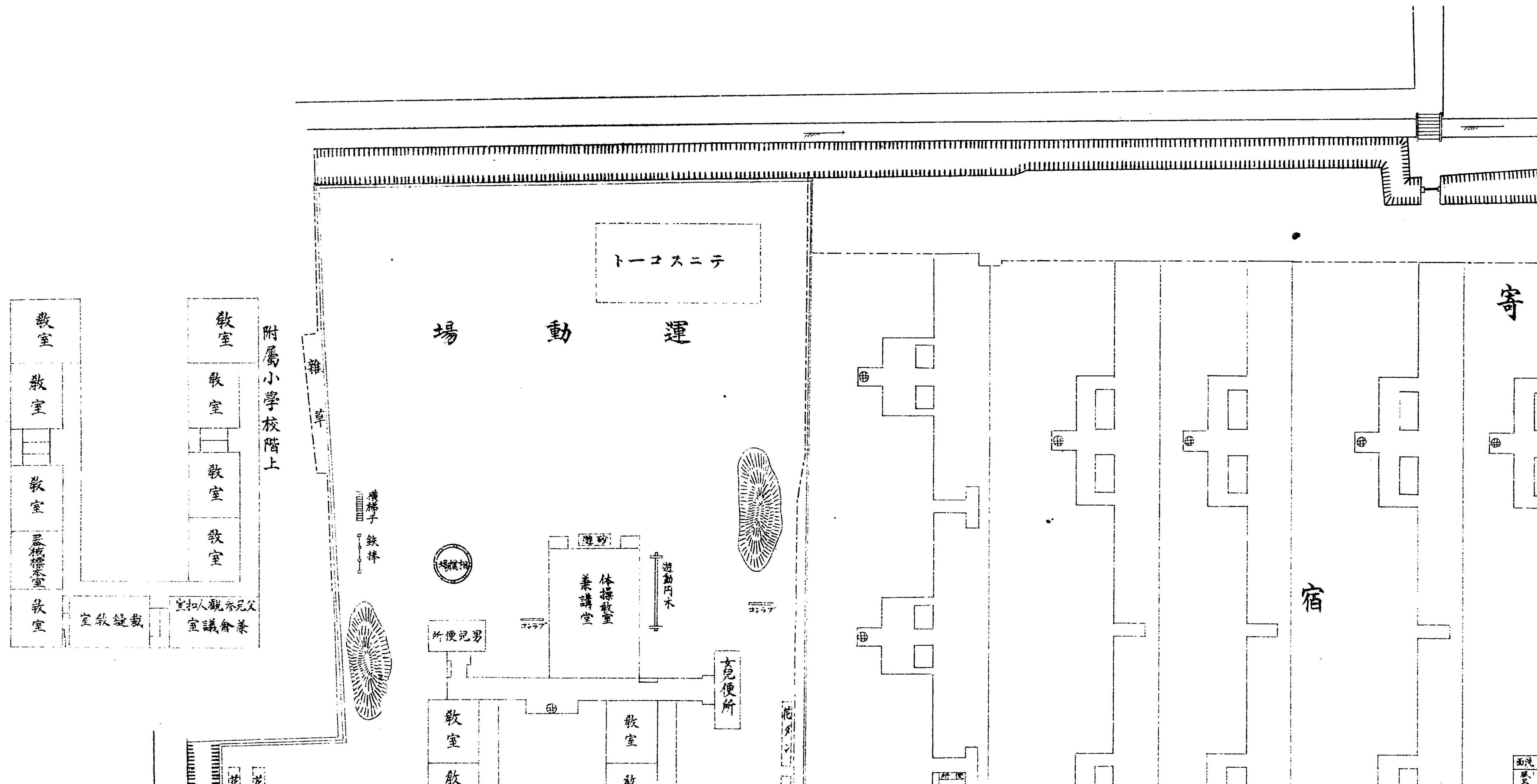
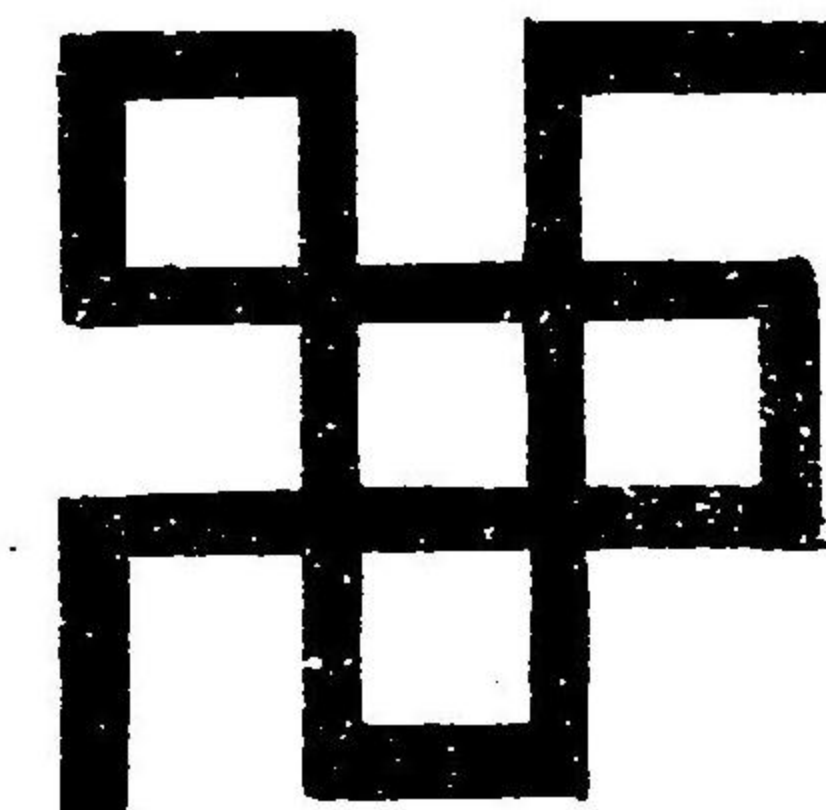
奈良女子高等師範學校平面圖

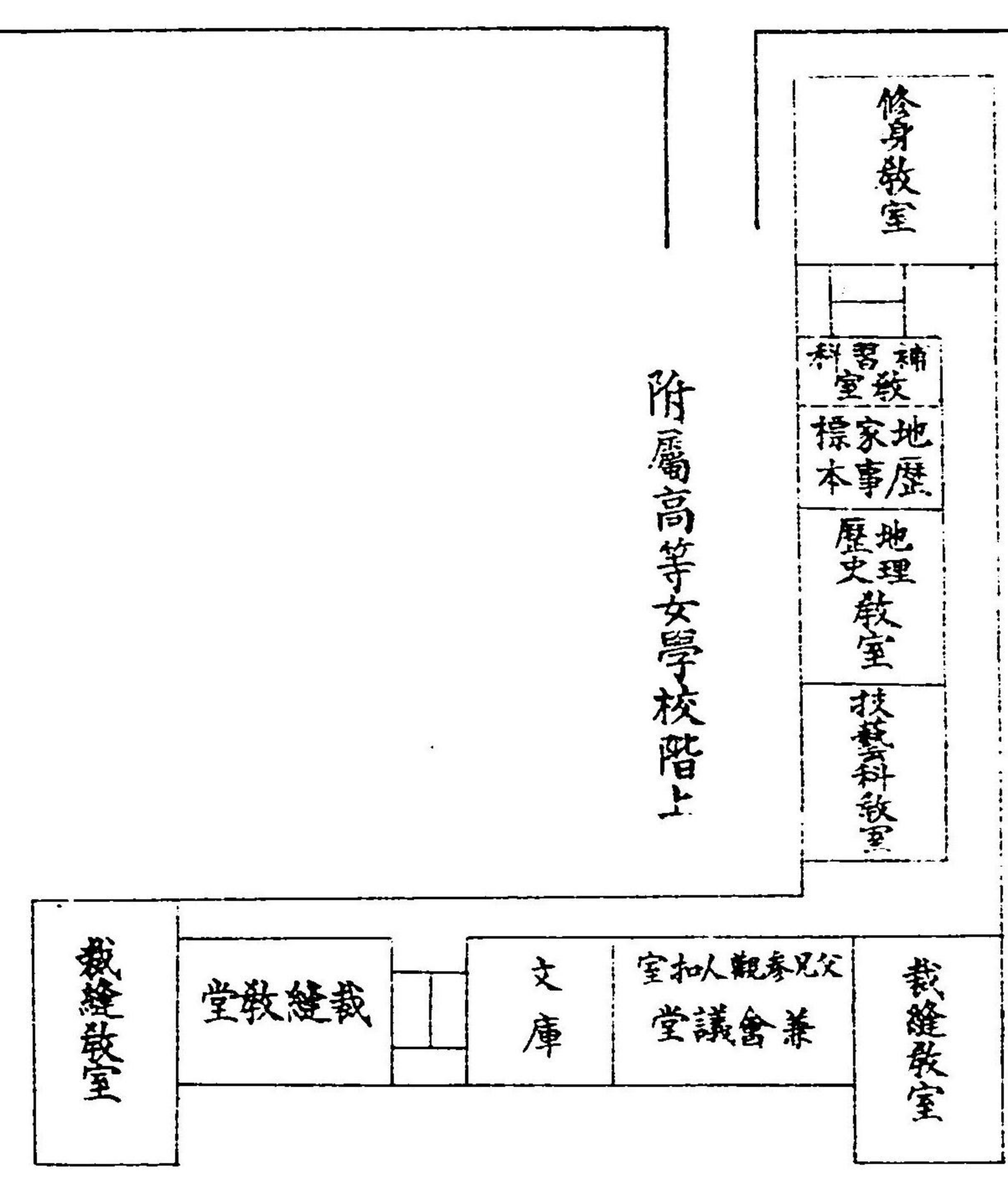
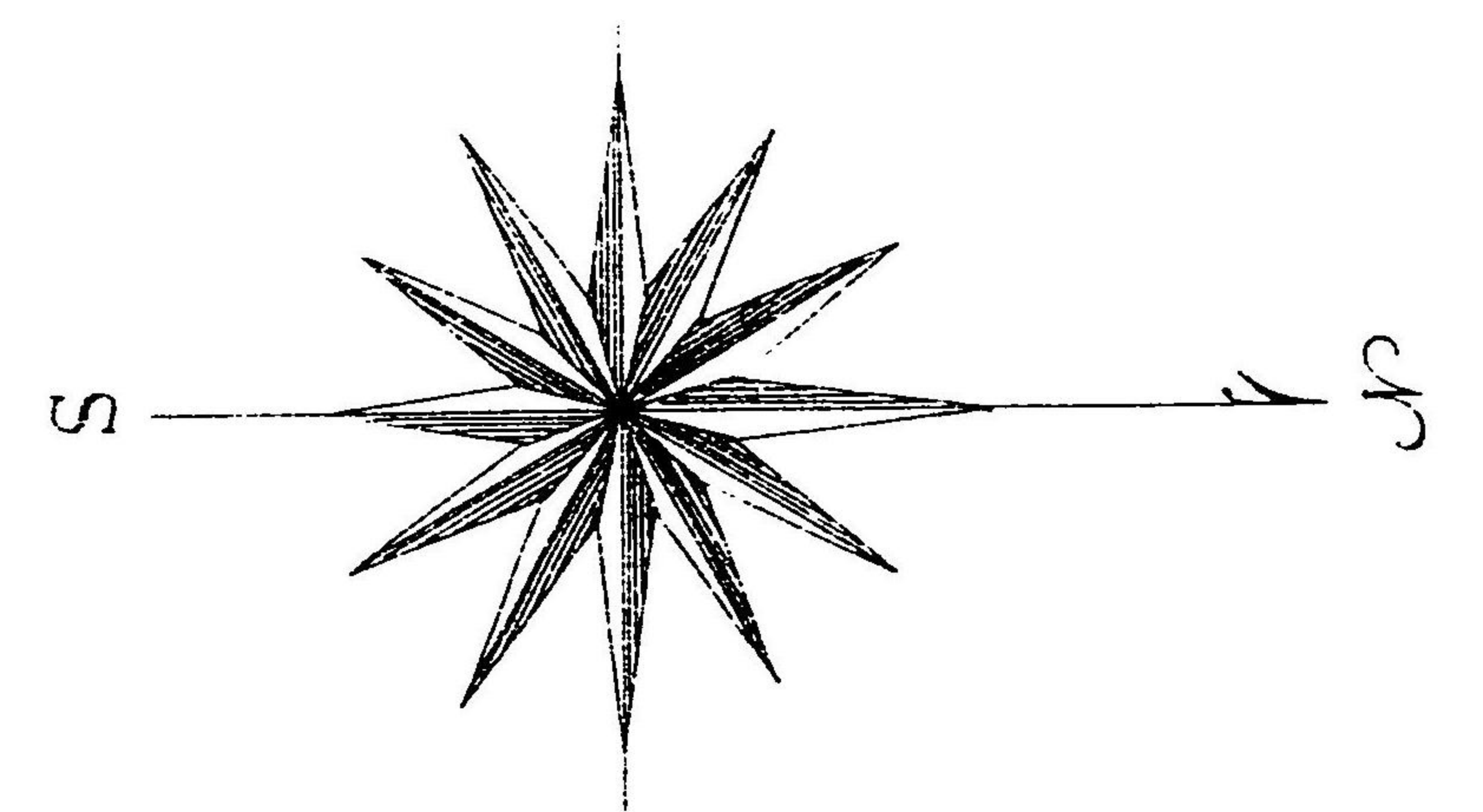
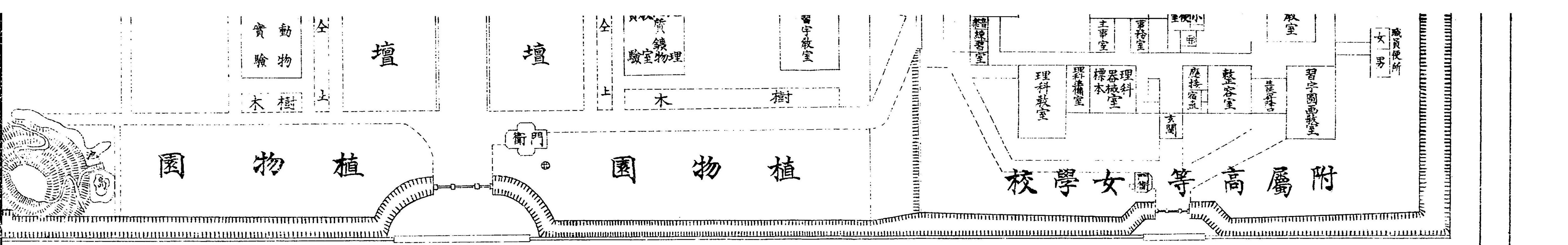
縮尺六百分之一

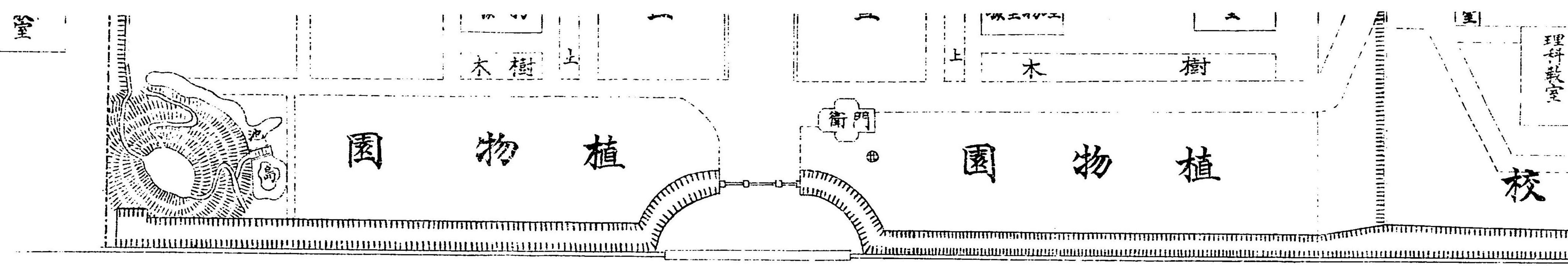


女子高等師範學校平面圖

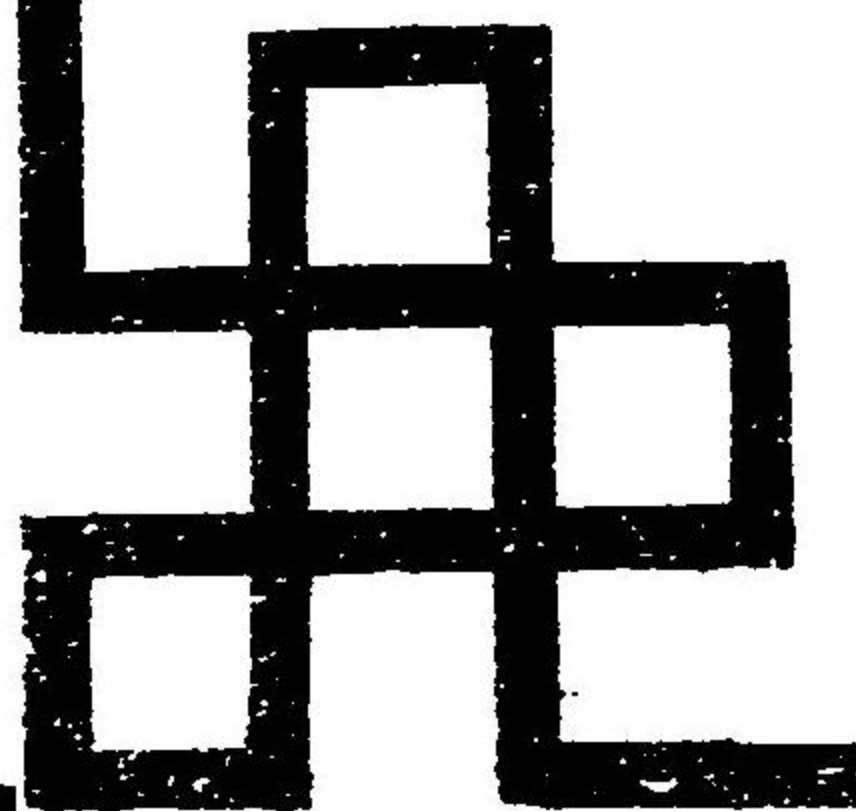
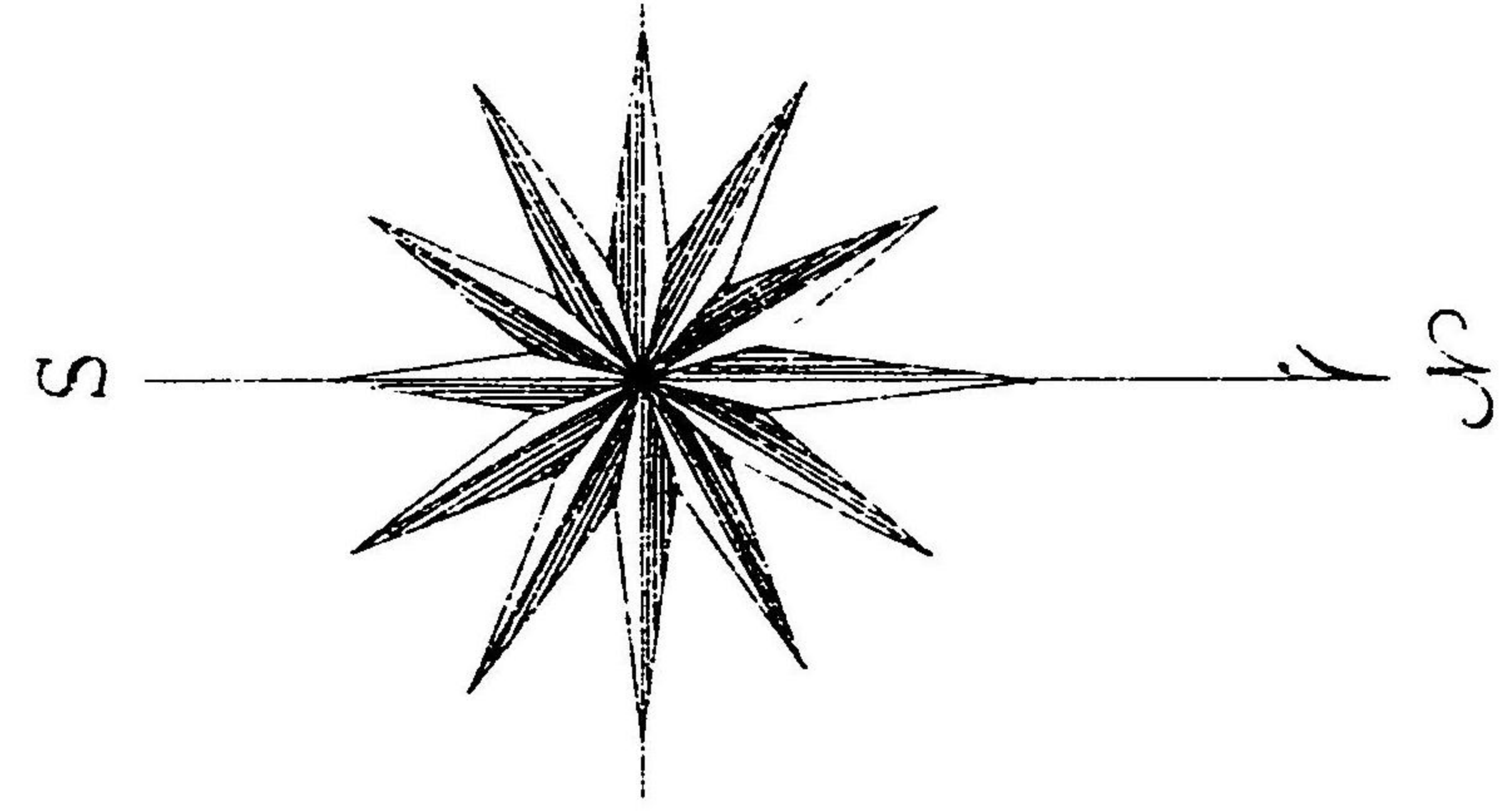
縮尺六百分之一







備考				符 號
宣統六年閏四月以降ノモノヲ揚	井	板 塀	土 羽	
			道路及境界線等	



附屬高等女學校

◎附屬高等女學校沿革畧

明治四十四年三月三十一日勅令第七十三號ヲ以テ本校職員定員中ニ敎諭助敎諭各十人ヲ加ヘラレ同年四月一日敎授藤堂忠次郎附屬高等女學校主事ヲ命セラルル同年七月二十日文部大臣ノ許可ヲ得テ附屬高等女學校規則ヲ定メ同年九月六日元奈良縣立奈良高等女學校生徒ヲ收容シ授業ヲ開始ス本校創立ノ初メ附屬高等女學校ハ奈良縣立奈良高等女學校ヲ代用スル計劃ナリシモ明治四十二年ニ至リ本校ト奈良縣トノ協議ニ依リ奈良縣ニ於テ本校敷地内ニ附屬高等女學校ハ之ヲ廢止シ其ノ生徒ヲ附屬ヲ建築シテ之ヲ政府ニ寄附シ同縣立奈良高等女學校ハ之ヲ廢止シ其ノ生徒ヲ附屬高等女學校ニ轉學セシムルノ議ヲ決シテ文部省ノ許可ヲ得明治四十三年度ヨリ工事ニ着手シ明治四十四年九月六日元奈良縣立奈良高等女學校ヲ廢止シタリ此ニ於テ本校ハ附屬高等女學校ヲ開始シ元奈良縣立奈良高等女學校生徒ヲ收容シテ之ヲ各相當學年ニ編入ス當時校舍ハ新築工事未タ完成セサルヲ以テ元奈良縣立奈良高等女學校々舍ヲ假用シ同月七日授業ヲ開始セリ同年十月十六日新築工事竣成セシヲ

以テ新校舍ニ移轉ス同月十八日政府ハ奈良縣ヨリ右校舍ノ寄附ヲ受領シ直ニ本校ニ交付セラル十一月五日附屬小學校ト共ニ校舍落成祝賀式ヲ舉行セリ

◎規則細則類

一、附屬高等女學校規則

第一章 目的

第一條 附屬高等女學校ハ女子ニ高等普通教育ヲ施シテ其ノ方法ノ研究ニ資シ且本校生徒ヲシテ之ヲ實習セシムル所トス

第二章 學科及修業年限

第二條 附屬高等女學校ニ本科及補習科ヲ置ク

第三條 本科ノ學科目ハ修身國語英語歴史地理數學理科圖畫家事裁縫園藝音樂體操トス

前項學科目ノ内英語ハ隨意科目トス

第四條 補習科ノ學科目ハ之ヲ別チテ第一部及第二部トシ第一部ノ學科目ハ修身國語漢文英語數學圖畫家事教育裁縫園藝音樂體操トシ第二部ノ學科目ハ修身國語數學圖畫家事教育裁縫園藝音樂體操トス

前項學科目ノ内英語圖畫園藝音樂ハ隨意科目トス

第五條 前二條ノ學科目中生徒身體ノ情況ニ由リ學修ニ適セスト認ムル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトアルヘシ

第六條 修業年限ハ本科四箇年補習科二箇年トス

第三章 學年學期及休業

第七條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテトシ

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテトシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ

三月三十一日マテトス

第九條 休業日ハ左ノ如シ

祝日 大祭日
 皇后陛下御誕辰
 學校記念日
 日曜日

春季休業 三月二十五日ヨリ四月七日マテ
 夏季休業 七月二十六日ヨリ九月五日マテ
 冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ

第四章 學科程度及教授時數

第十條 本科及補習科ノ程度及每週教授時數ハ左ノ如シ

本科課程表

修身	學年	
	科目	時間
二	數時週每	第一學年
作 生 徒 心 得 教 育 勅 語 述 義 法		
二	數時週每	第二學年
作 修 養 訓 話 法		
二	數時週每	第三學年
作 道 德 ノ 要 領 法		
二	數時週每	第四學年
前學年ノ續		

家事	圖畫	理科	數學	地理	歷史	英語	國語
							時間
一	一	二	二	三	三	三	六
及 衣 服 什 器 ノ 取 扱 及 手 入	考 臨 寫 案 畫 畫	動 植 物	算 術	附 日 本 地 理 、 關 東 州 、 瀧 州	日 本 歷 史 、 日 本 地 理 、 關 東 州 、 瀧 州	發 音 、 綴 字 、 讀 方 及 譯 解 、 語 方 及 作 文 、 書 取 、 習 字	講 讀 文 字
一	一	二	二	三	三	三	六
前學年ノ續	前學年ノ續	鐘 牛 植 物 、 理 及 衛 生 、 動 物	前學年ノ續	世 界 地 理	日 本 歷 史 、 外 國 歷 史	讀 方 及 譯 解 、 語 方 及 作 文 、 書 取 、 習 字	前學年ノ續
二	一	二	二	三	三	三	五
實 飲 食 物 ノ 調 理 、 衛 生 、 家 內 ノ 整 理 及	前學年ノ續	物 化 理	前學年ノ續	世 界 地 理	外 國 歷 史	讀 方 及 譯 解 、 語 方 及 作 文 、 書 取	講 讀 文 字
二	二	二	二	二	二	三	五
家 事 經 濟 、 實 習	前學年ノ續	前學年ノ續	幾 何 初 步	地 理 概 說	日 本 現 代 史	前學年ノ續	前學年ノ續

附屬高等女學校規則細則類

附屬高等女學校規則細則類

圖畫	數學	英語	漢文	國語	修身	學年	
						科目	年
二	二	三	二	四	二	數時週每	第一學年
臨寫 生畫	代數 初步	讀方及 譯解 書話及 作文	講 讀	講 讀	修養 訓話 作 法		
二	二	三	二	四	二	數時週每	第二學年
前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續		
教育	家事	圖畫	數學	國語	修身	學年	
						科目	年
一	二	二	一	三	二	數時週每	第一學年
家庭 教育ノ 方法	家事 一般ノ 補習	臨寫 生畫 考案 畫	算 術	講 讀	修養 訓話 作 法		
一	二	二	一	三	二	數時週每	第二學年
前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續		

補習科課程表

隨意科目ヲ修メサル者ノ爲ニハ其ノ教授時數ヲ他ノ學科目ニ加フルコトヲ得

計	體操	音樂	園藝	裁縫
三一	三	二		六
	遊 戲	單音 唱歌		普通ノ衣類ノ 裁方、繕方
三一	三	二		六
	前學年ノ續	單音 唱歌 輪唱 歌		前學年ノ續
三一	三	一	一	六
	前學年ノ續	單音 唱歌 輪唱 歌 重音 唱歌	花 卉、 蔬 菜、 養 雞、 養 蜂 等	前學年ノ續
三一	三	一	一	六
	前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續	前學年ノ續

家事	二	家事一般ノ 補習	二	前學年ノ績	裁縫	一〇 乃至 一五	普通ノ衣類 縫方、裁方、 編方、裁方、 物	一〇 乃至 一五	前學年ノ績
教育	一	家庭教育ノ 方法	一	前學年ノ績	園藝	二	花卉、蔬菜、 果樹、養雞、 養蜂等	二	前學年ノ績
裁縫	六	普通ノ衣類 縫方、裁方、 編方、裁方、 物	六	前學年ノ績	音樂	二	唱歌 樂器練習(課 外隨意)	二	前學年ノ績
園藝	二	花卉、蔬菜、 果樹、養雞、 養蜂等	二	前學年ノ績	體操	三	普通體操 遊戲	三	前學年ノ績
音樂	二	唱歌 樂器練習(課 外隨意)	二	前學年ノ績	計	二八 乃至 三三		二八 乃至 三三	
體操	三	普通體操 遊戲	三	前學年ノ績	計	三三 乃至 三三		三三 乃至 三三	
計	三二		三二						

第二部裁縫ノ每週教授時數ハ各生徒ノ事情ニ隨ヒ十時乃至十五時ノ範圍内ニ於テ増減スルモノトス

本表課程ノ外地地理歴史理科ノ事項ニ關スル智識ヲ補充スルヲメ補習科生徒全部ニ對シ每週一回課外教授ヲ行フ

第十一條 教科用圖書ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 生徒定員入學轉學在學及退學

第十二條 生徒ノ定員ハ本科約三百二十名補習科約四十名トス

第十三條 本科第一學年ニ入學スル者ハ年齡滿十二年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者タルヘク本科第二學年以上ニ入學スル者ハ右ニ準シ年齡學力入學セントスル學年ニ相當スル者タルヘシ

第十四條 入學ハ每學年ノ始ニ於テ之ヲ許ス

第十五條 入學ヲ願フ者ハ父母又ハ親族中ノ一人保護者トナリ願書(書式)ヲ差出スヘシ

第十六條 本科第一學年ニ入學ヲ願フ者ニハ國語及算術ニ就キ尋常小學校卒業ノ

程度ニ依リ其ノ學力ヲ試驗シ本科第二學年以上ニ入學ヲ願フ者ニハ其ノ入學セントスル學年以下ノ學科程度ニ就キ入學ニ必要ナル學力ノ有無ヲ試驗シ年齡學力入學セントスル學年ニ相當スト認ムル者ニ就キ入學ヲ許スヘキ定員ノ範圍内ニ於テ最適當ト認ムル者ヲ撰拔シテ入學セシム

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ入學ノ當日ニ其ノ保護者ヨリ保證書(第二號式)ヲ差出シ入學料金貳圓ヲ納ムヘシ

第十八條 他ノ高等女學校ノ生徒ニシテ已ムヲ得サル事情ノタメ該學校長ノ紹介ニ由リ當校ニ轉學センコトヲ願フ者アルトキハ其ノ修業中ノ學年以下ノ學科程度ニ就キ其ノ學力ヲ試驗シ入學セシムヘキ學年ノ生徒定員ノ範圍内ニ於テ時期ニ拘ハラズ轉學ヲ許スコトアルヘシ

第十五條及第十七條ノ規定ハ前項轉學者ニ準用ス

第十九條 隨意科目ヲ學修セント欲スル者ハ入學ノ際及前學年ノ終ニ於テ保護者ヨリ申出ツヘシ

第二十條 生徒ハ授業料金壹圓五拾錢ヲ毎月始業ノ日ヨリ三日以内ニ納ムヘシハ

月及全月間授業ヲ休止シタル月ハ授業料ヲ納ムルヲ要セス

全月間缺席シタル生徒ノ授業料ハ前項ニ準ス

第二十一條 保護者ノ住所遠隔ノ地ニ在ルトキハ奈良市又ハ其ノ附近ノ地ニ居住スル者ヲ以テ代理保護者ト爲シ連署シテ届出ツヘシ

第二十二條 生徒ハ其ノ保護者若クハ代理保護者死去シ又ハ其ノ資格消滅シタルトキハ更ニ保護者若クハ代理保護者ヲ定メ其ノ旨届出テ該保護者ハ遲滞ナク保證書ヲ差出スヘシ

第二十三條 當校ニ於テ保護者又ハ代理保護者ヲ適當ナラスト認ムルトキハ變更セシムルコトアルヘシ

第二十四條 入學願書ニ記載セル住家以外ノ家ニ寄宿シテ通學セントスル者ハ保護者ヨリ其ノ事由ヲ具シ當校ノ承認ヲ受クヘシ

寄宿所ヲ變更セントスルトキ亦前項ニ準ス

第二十五條 疾病其他ノ事故ニ依リ缺席遅刻早退スルトキ又ハ其ノ同居人傳染病ニ罹リタルトキハ保護者又ハ代理保護者ヨリ其ノ都度届出ツヘシ

第二十六條 已ムヲ得サル事情ニ由リ他ノ高等女學校へ轉學セント欲スル者ハ其事情ヲ詳記シ保護者ヨリ願出ツヘシ
當校ニ於テ前項ノ事由ヲ正當ナリト認ムルトキハ轉學先學校ニ紹介ノ手續ヲナスヘシ

第二十七條 疾病其他ノ事故ニ依リ退學セント欲スル者ハ其ノ事實ヲ詳記シ保護者ヨリ願出ツヘシ

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ニハ退學ヲ命ス

一 性行不良ニシテ他ノ生徒ノ教育上妨害トナルヘキ虞アル者

二 學業ノ進歩不充分ニシテ一般生徒ノ教授上著シク妨害トナル者

三 前二號ノ外當校教育ノ趣旨ニ適合セサル者

第二十九條 授業料ノ納付ヲ怠リ督促ヲ受クルモ猶納付セサル者ハ其ノ登校ヲ停止シ又ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第六章 學業成績査定及卒業

第三十條 學期末ニ於テ其ノ學期間ノ學業成績ヲ査定シ學年末ニ於テ各學期ノ成

績ヲ審按シ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認定ス

第三十一條 本科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書(書三號)補習科各學年ノ課程ヲ修了シタル者ニハ修業證書(書四號)ヲ授與ス

第七章 寄宿寮

第三十二條 家庭遠隔ノ地ニ在リテ學校附近ニ適當ノ寄宿所ナキ生徒其他特別ノ事情アル生徒ノ爲ニ寄宿寮ヲ置ク

第三十三條 寄宿生ノ定員ハ七十二名トス

第三十四條 寄宿寮ニ入ラント欲スル者ハ保護者ヨリ其事由ヲ具シ願出ツヘシ
寄宿生ニシテ退寮セント欲スル者亦前項ニ準ス

第八章 附 則

第三十五條 此規則ハ明治四十四年九月ヨリ實施ス

第三十六條 明治四十四年九月ニ於テハ奈良縣立奈良高等女學校廢止ノ際同校本科各學年及補習科並技藝專修科第三學年及第四學年ニ在學シタル生徒ニシテ入學ヲ願フ者ヲ入學セシメ之ヲ各當該學年ニ編入ス此場合ニ於テハ第十六條及第

十七條中入學料ニ關スル規定ハ之ヲ適用セス
 第三十七條 前條技藝專修科ニ在學シタル生徒ノ爲ニ其ノ卒業ニ至ルマテ當校ニ
 技藝專修科第三學年及第四學年ヲ置キ其ノ學科課程ヲ左ノ如ク定ム

學科	學年	學科目	
		時數	每週
理	一	生理、衛生ノ大要	一
	一	化學上及物理上ノ現象	一
數	一	算術	一
	一	前學年ノ續	一
國語	三	講讀、作文、習字	三
	三	講讀、作文	三
修身	一	修養訓話 道德ノ要領	一
	一	前學年ノ續	一
圖畫	一	寫生畫 臨案畫	一
	一	前學年ノ續	一
家事	二	家内ノ整理及衛生 飲食物ノ調理 實習	二
	二	育兒、養老、看病、 家事經濟 實習	二
裁縫	二	普通ノ衣類縫方 裁方、繕方	二
	二	前學年ノ續	二
手藝	六	編物 刺繡 花繡	六
	六	前學年ノ續	六
音樂	一	唱歌	一
	一	前學年ノ續	一
體操	三	普通體操 遊藝	三
	三	前學年ノ續	三
計	三一		三一

第三十八條 第七條乃至第九條、第十五條、第十七條、第十八條、第二十條乃至第三十四
 條ノ規定ハ技藝專修科ニ準用ス

書式第一號

入 學 願 書

族籍何某幾女姉妹又ハ戶主 何 某

一 出生年月日

二 出生地

三 原籍地

四 居住地

五 戶主ノ氏名及職業

〔戶主以外ノ者ノ家ニ居住スルトキハ其家ノ主人ノ氏名職業併記〕

六 從前ノ教育

七 賞罰

明治何年何月何地何學校ニ於テ第何學年修了又ハ卒業

右ノ者今般御校附屬高等女學校何科第何學年ニ入學爲致度候ニ付御許

可相成度此段相願候也

年 月 日

住 所

族籍職業本人トノ關係

保護者 何

某 印

奈良女子高等師範學校長 殿

殿

書式第二號

保 證 書

族籍何某幾女姉妹又ハ戶主

何

某

年月日生

參 入 錢 收 入 紙 印

右者今般御校附屬高等女學校ニ入學許可相成候ニ付テハ御校御規則御命令等遵守可爲致ハ勿論木人身上ニ關スル一切ノ事件ハ拙者引受處辨可仕候依而證書如件

尙向後轉居改印等致候節ハ直チニ御届可申候也

住 所

族籍職業本人トノ關係

何

某 印

年 月 日

奈良女子高等師範學校長 殿

殿

卒業證書

族籍

校印

(隨意科目
英語併修)

何

某

年月日生

右ハ當校附屬高等女學校ノ本科ヲ卒業セリ因テ茲ニ之ヲ證ス

年月日

奈良女子高等師範學校長位勳學位爵何某

番號

修業證書

族籍

校印

何々々々

何

某

年月日生

右ハ當校附屬高等女學校補習科第何部第何學年ノ課程中頭書ノ科目ヲ
修了セリ因テ茲ニ之ヲ證ス

年月日

奈良女子高等師範學校長位勳學位爵何某

番號

一、附屬高等女學校職員服務假規程

- 第一條 附屬高等女學校職員ハ校長及主事ノ指揮ヲ承ケ職務ヲ分掌スヘシ
- 第二條 新任ノ際ハ辭令受領書履歷書及住所屬以上共ニ本校所定ノ用紙若クハ帳簿ニ記入ヲ本校庶務係へ印鑑届本校所定ノ帳簿ヲ本校會計係へ差出スヘシ但シ住所及印鑑ヲ變更シタルモノハ速ニ届出ツルヲ要ス
- 第三條 辭令ヲ受ケタルトキハ直ニ主事ニ届出ツヘシ
- 第四條 服裝ハ男子ニアリテハ「フロックコート」ヲ正服トシ「モーニングコート」背廣ヲ略服トシ女子ニアリテハ着袴トス
- 儀式ニ列スルトキハ男子ハ禮服又ハ正服女子ハ白襟紋付ヲ着スヘシ
- 第五條 毎日始業十五分前迄ニ出校シ終業時限後三十分ヨリ退散スヘシ
出校ノ際ハ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第六條 疾病事故ノ爲メ缺勤又ハ遅刻セントスルキハ始業十分前迄ニ届出ツヘシ但シ疾病ニ依リ缺勤七日以上連續スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

- 第七條 出張ヲ命セラレタルトキハ出發歸校ノ都度届出テ且歸校後一週間以内ニ行程及報告書ヲ差出スヘシ
- 第八條 請假旅行セントスル場合ハ願書ヲ差出シ校長ノ許可ヲ俟テ之ヲ行フヘシ賜暇中旅行セントスルトキハ行先及旅行日數ヲ記載シタル届書ヲ差出スヘシ
- 第九條 願届其他ノ書類ハ先ツ附屬高等女學校常務係へ差出シ總テ主事ヲ經由スヘキモノトス但シ第二條ノ書類ハ住所屬ノ外此限ニアラス
- 第十條 別ニ規程アルモノ、外ハ校名又ハ職名ヲ以テ文書ヲ往復スルコトヲ得ス
- 第十一條 職員ハ總テ校長ノ許可ヲ得ルニ非レハ他ノ職務ニ從事スヘカラス
- 第十二條 非常ノ事變アルトキハ即時出校シテ應分ノ任務ヲ果スヘシ

三、附屬高等女學校事務分掌假規程

- 第一條 附屬高等女學校ニ教務庶務圖書及寮務ノ四係ヲ置キテ事務ヲ分掌セシム
- 第二條 各係員ハ主事ノ指揮ヲ承ケ各主管事務ヲ分擔シ關聯セル事項ハ合議シ又場合ニ依リテハ他管事務ニ涉ルコトニテモ相互ニ助ケ合フヘシ

第三條 教務係ノ主管事務左ノ如シ

- 一 教務ニ關スル細則ヲ立案スルコト
- 二 教授細目及訓育要目ノ編纂ニ關スルコト
- 三 教授及訓育ノ功程及統一ニ關スルコト
- 四 教生實地授業ニ關スルコト
- 五 年中行事ニ關スルコト
- 六 課外運動作業郊外教授遠足修學旅行ニ關スルコト
- 七 朝會學藝會修辭會運動會等ニ關スルコト
- 八 職員修養ノ協議ニ關スルコト
- 九 生徒成績品教育參考品ノ蒐集陳列整理保管ニ關スルコト
- 十 學校ノ内外ニ於ケル生徒ノ監護ニ關スルコト
- 十一 教授時間ニ關スルコト
- 十二 教科書ニ關スルコト
- 十三 生徒成績考查ニ關スルコト

- 十四 生徒性行調査ニ關スルコト
- 十五 生徒ノ修業卒業ニ關スルコト
- 十六 入學檢定ニ關スルコト
- 十七 補缺授業ニ關スルコト
- 十八 教育研究ニ關スルコト
- 十九 生徒ノ整容看護ニ關スルコト
- 二十 教務日誌ニ關スルコト
- 二十一 教務ニ關スル表簿ノ調製報告整理ニ關スルコト
- 二十二 其他教務ニ關スル一切ノ事項

第四條 庶務係ノ主管事務左ノ如シ

- 一 庶務ニ關スル細則ヲ立案スルコト
- 二 月報記錄統計等ノ調製ニ關スルコト
- 三 年中行事ニ關スルコト
- 四 學校日誌及沿革誌ニ關スルコト

- 五 職員會教生會等ノ記錄ニ關スルコト
- 六 儀式ニ關スルコト
- 七 生徒學籍簿ノ整理ニ關スルコト
- 八 生徒募集入學退學轉學出席缺席ニ關スルコト
- 九 卒業生ニ關スルコト
- 十 參觀人生徒ノ保護者及其他外來者ノ應接ニ關スルコト
- 十一 學校一覽ノ編纂ニ關スルコト
- 十二 經費豫算ニ關スルコト
- 十三 物品ノ設備設計整理保管出納ニ關スルコト
- 十四 一般校地校舍内外ノ清潔整頓修繕警備ニ關スルコト
- 十五 衛生ニ關スルコト
- 十六 生徒ノ身體檢査及健康ニ關スルコト
- 十七 生徒ノ學藝品及學資ニ關スルコト
- 十八 庶務日誌ニ關スルコト

十九 其他庶務ニ關スル一切ノ事項

第五條 圖書係ノ主管事務左ノ如シ

- 一 圖書印章ノ管守ニ關スルコト
- 二 圖書ノ請求整理保管及目錄編纂ニ關スルコト
- 三 圖書ノ貸借出納ニ關スルコト
- 四 生徒文庫ノ指導整理ニ關スルコト
- 五 官報雜誌新聞類ノ閱覽保管ニ關スルコト
- 六 圖書ニ關スル帳簿ノ調製整理保管ニ關スルコト
- 七 圖書ニ關スル報告ニ關スルコト
- 八 圖書ニ關スル豫算ニ關スルコト
- 九 圖書原簿取扱保管ニ關スルコト
- 十 其他圖書ニ關スル一切ノ事項

第六條 寮務係ノ主管事務左ノ如シ

- 一 在寮生徒ノ訓育及管理ニ關スルコト

- 二 生徒ノ入寮退寮等ニ關スルコト
 - 三 寮舎ノ配當係員ノ任免ニ關スルコト
 - 四 在寮生徒ノ學資健康炊事等ニ關スルコト
 - 五 食品其他炊事用物品購入ニ關スルコト
 - 六 寮舎備品ノ設計保管整理ニ關スルコト
 - 七 寮舎ノ豫算ニ關スルコト
 - 八 寮舎内外ノ清潔整理警備衛生ニ關スルコト
 - 九 寮僕婢ノ傭入及取締ニ關スルコト
 - 十 寮舎年中行事ニ關スルコト
 - 十一 寮舎日誌ニ關スルコト
 - 十二 本校生徒ノ寮務實習ノ指導ニ關スルコト
 - 十三 其他寮務ニ關スル一切ノ事項
- 第七條 以上諸係ノ外別ニ常務係ヲ置キ左ノ事項ヲ掌ラシム
- 一 公文書類ノ接受發送及保管ニ關スルコト

- 二 校印ノ管守ニ關スルコト
- 三 職員ノ身上ニ關スルコト
- 四 諸願届ノ受理及配付ニ關スルコト
- 五 通達ニ關スルコト
- 六 職員ノ出勤ニ關スルコト
- 七 應接室宿直室主事室職員室事務室會議室等ノ整理ニ關スルコト
- 八 儀式職員會等ノ準備ニ關スルコト
- 九 備品消耗品ノ請求保管出納ニ關スルコト
- 十 各種ノ書類統計圖面等ノ淨寫謄寫ニ關スルコト
- 十一 一般校地校舎内外ノ清潔整理修繕及警備ニ關スルコト
- 十二 特ニ生徒便所ノ清潔整理ニ關スルコト
- 十三 參觀人其他一般ノ外來者取扱ニ關スルコト
- 十四 傭人ノ傭入及指揮取締ニ關スルコト
- 十五 當宿直割ニ關スルコト

十六 其他主事ヨリ命セラレタル一切ノ事項
第八條 事務ノ所屬不明ナルモノ、主管ハ其都度主事之ヲ指定ス

四、附屬高等女學校學年擔任假規程

學年擔任ハ擔任學年ニ關シ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 生徒ノ訓育並ニ其ノ統一ニ關スルコト
- 二 命令ノ傳達及實行ニ關スルコト
- 三 家庭トノ交渉ニ關スルコト但シ此場合ニハ教務係ヲ經テ主事ニ協議スルコト
- 四 生徒ノ學業性行ノ考查及身體ノ檢査ニ關スルコト
- 五 補缺教授ニ關スルコト
- 六 生徒ノ賞罰ニ關スルコト
- 七 生徒教育原簿生徒出席簿生徒宿所調査簿通知簿其他當該學年ニ關シ必要ナル諸表簿ノ調製記入並ニ整理保管ヲ爲スコト
- 八 學級日誌ニ關スルコト

- 九 毎日生徒ノ出席數ヲ報告スルコト
- 十 生徒ノ學級週番及學級當番ノ順序ヲ定ムルコト
- 十一 生徒ノ願届等ヲ處理スルコト
- 十二 教室ノ清潔ニ關スルコト
- 十三 生徒掃除ノ際臨監スルコト
- 十四 生徒ニ對スル信書及面會人ノ取扱ニ關スルコト
- 十五 生徒ノ會合ニ關スルコト
- 十六 毎日放課後生徒ト挨拶ヲ交換スルコト
- 十七 晝食ヲ擔任學級及生徒ト共ニスルコト
- 十八 其他當該學年ニ關シ必要ナル事項

五、附屬高等女學校學科主任假規程

學科主任ハ當該學科目ニ關シ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 教授材料ノ研究選擇并ニ其ノ統一ニ關スルコト

- 二 教授法ノ研究ニ關スルコト
- 三 教授細目ノ編製ニ關スルコト
- 四 教授ノ進度ニ關スルコト
- 五 教科書ノ選定ニ關スルコト
- 六 教授ニ關スル圖書ノ購入整理ニ關スルコト
- 七 教授ニ關スル器械標本等購入整理考案調製ニ關スルコト
- 八 必要ニ應シテ當該學科目擔任教官ヲ召集シテ協議スルコト

六、附屬高等女學校生徒校內管理規程

校內ニ於ケル生徒ヲ監督スルタメニ教官中ヨリ校內監督主任及校內監督ヲ置ク

- 一 校內監督主任ハ主事之ヲ定ム
- 二 校內監督主任ハ校內監督ノ順序ヲ定メ且校內監督上一切ノ事項ヲ處理スルモノトス
- 三 校內監督ハ男女教官各一名ツ、毎日交番ニ之ニ當ルモノトス

但シ寮務係員ハ之ヲ省ク

四 校內監督ノ任務ハ左ノ如シ

- 一 始業前二十分ニ上校シ講堂各教室生徒扣所運動場廊下昇降口小使室湯呑場整容室便所等ヲ巡視シ清潔整頓等ニ注意スルコト
- 二 終業後一時間ヲ經テ同上ノ場所ヲ巡視シ其ノ異狀ナキヲ檢シ且故ナクシテ下校セサル生徒ナキ様ニシ又遺留品ノ有無火元及遊戯道具ノ整理等ニ注意スルコト
- 三 生徒ノ集合整列解散等ヲ指揮監督スルコト
- 四 毎休憩時間中廊下運動場等ヲ巡視スルコト
- 五 全般生徒ノ風儀流行衛生氣風等ニ注意シ校內監督主任ト協議ノ上漸次上進改善ノ方法ヲ立ツルコト
- 六 各級生徒ニ關スルコトハ其ノ學年擔任ト協議スルコト
- 七 生徒ノ發病負傷其他臨時ニ起リタル事項ヲ處理スルコト
- 八 監督日誌及朝會記錄ヲ認メ之ヲ監督主任ニ差出スコト

◎附屬高等女學校職員

●主事

修身教育

教授 藤堂忠次郎 兵庫縣民

●教諭

修身地理(地文理科博物) 理科主任

從六位 永澤 定一 青森縣民

修身 修身科主任

教授 鯉川 龍夫 富山縣民

修身國語 國語科主任

兼助教 從七位 三井 政善 山梨縣民

修身數學 數學科主任

兼助教 從七位 春日今朝藏 長野縣民

修身數學

兼訓導 正八位 柏木 三郎 福島縣民

修身歷史 寮監

正八位 石野 ミヨ 石川縣民

家事

正八位 窪田 八重 京都府民

理科(物理、化學)

助教 越智 キヨ 山口縣民

助教 石澤 吉磨 山形縣民

修身國語漢文

助教 梅村喜一郎 愛知縣民

●助教諭

英語 英語科主任

助教 玉木 正行 山口縣民

音樂 音樂科主任

助教 田中寅之助 大阪府民

習字 習字科主任

助教 大塚 治六 靜岡縣民

園藝 園藝科主任

助教 三井ヒサエ 香川縣民

修身國語

助教 伊佐早むち 山形縣民

英語

兼訓導 柴山 健三 大阪府民

裁縫

兼助教 大坪 ノブ 群馬縣民

圖書 圖書科主任

兼助教 多賀谷健吉 東京府民

修身家事裁縫

助教 吉川 鈴 石川縣民

体操 体操科主任

助教 菊澤 三壽 三重縣民

音樂

助教 宮内 薫 愛媛縣民

裁縫

訓導 澤 きよ 三重縣民

附屬高等女學校職員

理科(物理、化學)
 習字
 音樂
 家事裁縫 寮監
 体操
 ● 講師
 修身、歷史、地理
 ● 囑託
 國語
 裁縫
 家事裁縫、手藝(造花)
 体操
 裁縫
 裁縫

訓導 宮崎 素 大阪府
 訓導 三宅 よし 東京府
 谷澤 とめ 滋賀縣
 森 あきる 京都府
 兼助教授 高橋 キャウ 香川縣
 加藤 吉士 山形縣
 砂川 謹吾 兵庫縣
 長尾 糸 岡山縣
 一戸 伊勢 青森縣
 辻 ナヲ 奈良縣
 大澤 かね 兵庫縣
 北村 貞 滋賀縣

手藝(編物、刺繡)

● 雇

常務係
常務係

小中 都留 奈良縣
 中尾 秀松 奈良縣
 山本 豊 廣島縣

◎生徒

一、學科學年別生徒數

(明治四十四年十月末調)

學科、學年、組別	種類		通學		寄宿		學級		學年
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	
本	甲組	乙組	甲組	乙組	甲組	乙組	甲組	乙組	計
	三七	四一	三五	四三	一一	七	四八	四八	
科	甲組	乙組	甲組	乙組	甲組	乙組	甲組	乙組	計
	二七	二六	三三	四三	七	八	四四	四四	
第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		合計	
九六		九六		八七		六九		二九	

二、府縣郡市別生徒數

(明治四十四年十月末調)

府縣別	本		科		技藝		合計
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第一學年	第二學年	
奈良市	三一	一五	一三	一二	六	三	八四
	一一	一五	五	八	七	二	
添上郡	一七	二二	二二	一〇	七	三	八六
	四	一〇	六	二	一	二	
山邊郡	一	一	二	一	一	一	一〇
	一	一	二	一	一	一	
磯城郡	一	一	二	一	一	一	一〇
	一	一	二	一	一	一	
高市郡	一	一	二	一	一	一	三
	一	一	二	一	一	一	
北葛城郡	一	一	二	一	一	一	二一
	一	一	二	一	一	一	
合計		三二七	八五	四二二	九	二六	四二九

附屬高等女學校生徒

附屬小學校

合 計	他 府 縣						奈 良 縣				府 縣 別 學 科、學 年	
	小 計	其 他 府 縣	和 歌 山 縣	三 重 縣	大 阪 府	京 都 府	小 計	吉 野 郡	宇 陀 郡	宇 智 郡		南 葛 城 郡
九六	二四	一〇	六	二	三	三	七二	二	一	二	五	第一學年
九八	二二	一三	一	一	二	六	七六	六	一	一	一	第二學年
八五	二三	七	一	一	五	一〇	六二	二	一	二	三	第三學年
六九	二三	七	三	四	三	六	四六	三	一	四	一	第四學年
二九	二	一	一	一	一	二	二七	一	一	一	一	技藝專修科 第三學年
二六	一〇	一	一	一	一	九	一六	二	一	二	一	技藝專修科 第四學年
九	一	一	一	一	一	一	八	一	一	一	一	補習科 第一學年
四二二	一〇五	三八	一二	六	一三	三六	三〇七	一五	四	一一	一〇	合 計

◎ 附屬小學校沿革畧

政府曩ニ奈良女子高等師範學校ヲ設置スルニ當リ其附屬小學校ハ別ニ之ヲ設ケス奈良市立某小學校ヲ代用スルノ計劃ナリキ然レトモ本校開始ノ後當初ノ計劃ノ適當ナラサルヲ認メ奈良市ト交渉ノ結果同市ハ政府ヘ寄附ノ目的ヲ以テ本校敷地内ニ附屬小學校々舎ニ充ツヘキ建物ヲ建築スルノ議ヲ決シ政府其議ヲ容レ茲ニ附屬小學校ヲ設置スルコト、ナレリ是ニ於テ本校ハ市ノ希望ニ由リ就學區域ヲ協定シ該區域内ノ兒童ハ總テ其入學ヲ許可スルコト、ス

明治四十四年三月二十九日文部大臣ノ許可ヲ得テ附屬小學校規則ヲ定ム同月三十一日勅令第七十三號ヲ以テ本校職員定員中ニ調導十八人ヲ加ヘラレ同年四月一日教授眞田幸憲附屬小學校主事ヲ命セラル同月九日兒童ノ入學ヲ許可シ同月十二日授業ヲ開始ス當時校舎ハ新築工事未タ落成セサルヲ以テ元奈良市立第三尋常小學校朝日分教場ノ校舎ヲ假用セリ然ルニ校舎狹隘ニシテ兒童全部ヲ一時ニ收容スルヲ得サルヲ以テ兒童ヲ午前ト午後トニ分テ二部教授ヲ行フ同年七月二十一日新築

工事概竣功セシヲ以テ新校舍ニ移轉シ二部教授ヲ廢ス十月新築工事全部落成ヲ告ケタルヲ以テ奈良市ハ之ヲ政府ニ寄附シ同月三十日政府之ヲ受領シ直ニ本校ニ交付セララル十一月五日附屬高等女學校ト共ニ校舍落成祝賀式ヲ舉行セリ

◎附屬小學校規則細則類

一、附屬小學校規則

(明治四十四年三月二十九日制定)

- 第一條 附屬小學校ハ兒童ニ小學教育ヲ施シテ其ノ方法ノ研究ニ資シ且ツ本校生徒ヲシテ之ヲ實習セシムル所トス (明治四十五年三月改正)
- 第二條 附屬小學校ニ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置ス
- 第三條 尋常小學校ノ修業年限ハ六箇年高等小學校ノ修業年限ハ二箇年トス
- 第四條 尋常小學校ノ教科目ハ修身國語算術日本歴史地理理科圖書手工唱歌體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ
- 高等小學校ノ教科目ハ修身國語算術日本歴史地理理科圖書手工唱歌體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ
- 第五條 學年ハ四月一ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第六條 學年ヲ分チテ三學期トス四月一日ヨリ八月三十一日マデヲ第一學期トシ

九月一日ヨリ十二月三十一日マデヲ第二期トシ一月一日ヨリ三月三十一日マデヲ第三學期トス

第七條 休業日ハ左ノ如シ

祝日 大祭日

皇后陛下御誕辰

學校記念日

春日若宮祭

日曜日

春季休業 三月二十五日ヨリ四月七日マデ

夏季休業 七月二十六日ヨリ九月五日マデ

冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マデ

第八條 各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ハ別表ノ如シ

第九條 教科用圖書ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 兒童ノ定員ハ尋常小學科約六百名高等小學科約八十名トス

第十一條 尋常小學科ノ兒童ハ之ヲ十二學級ニ編制シ高等小學科ノ兒童ハ之ヲ二學級ニ編制ス

第十二條 授業料ハ尋常小學科ニ於テハ之ヲ徴收セス高等小學科ニ於テハ毎月金四拾錢トシ毎月十一日ヨリ三日以内ニ之ヲ徴收ス

八月及授業休止全月ニ亘リタル月ハ授業料ヲ徴收セス

缺席全月ニ亘レル兒童ノ授業料ハ前項ニ準ス

第十三條 兒童ノ入學ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 病氣又ハ止ムヲ得サル事故ノタメ兒童ニ缺席遲刻又ハ早引ヲナサシムルトキハ其旨保護者ヨリ届出ツヘシ

第十五條 兒童又ハ保護者轉居シタルトキハ其旨保護者ヨリ届出ツヘシ

第十六條 性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ニハ出席ヲ停止シ又ハ特別ノ處分ヲナスコトアルヘシ

第十七條 保護者ニ於テ兒童ヲ退學セシメントスルトキハ理由ヲ具シテ願出ツヘシ

第十八條 每學年ノ終ニハ其學年内ニ於ケル兒童ノ成績ヲ考查シ各學年ノ課程ノ

計	裁縫	体操	唱歌	手工
二二		遊戯	平易ナル單唱歌	一簡易ナル細工
二四		普通体操 遊戯	平易ナル單唱歌	一簡易ナル細工
二八		普通体操 遊戯	平易ナル單唱歌	二簡易ナル細工
二女 二男 九 八	二 運針方 通常ノ衣類ノ縫ヒ方	三 普通体操 遊戯	一 平易ナル單唱歌	女 男 一 二 簡易ナル細工
三女 二男 〇 九	三 通常ノ衣類ノ縫ヒ方 結ヒ方	三 普通体操 遊戯 兵式	二 平易ナル單唱歌	女 男 一 二 簡易ナル細工
三女 二男 〇 九	三 通常ノ衣類ノ縫ヒ方 結ヒ方	三 普通体操 遊戯 兵式	二 平易ナル單唱歌	女 男 一 二 簡易ナル細工
三女 三男 二 〇	五 通常ノ衣類ノ縫ヒ方 裁子方 結ヒ方	三 普通体操 遊戯 兵式	一 單音唱歌 簡易ナル複音唱歌	女 男 二 四 簡易ナル製作製圖
三女 三男 二 〇	五 通常ノ衣類ノ縫ヒ方 裁子方 結ヒ方	三 普通体操 遊戯 兵式	一 單音唱歌 簡易ナル複音唱歌	女 男 二 四 簡易ナル製作製圖

書式第壹號

修業證書

校印

何 某

年月日生

右ハ當校附屬小學校ニ於テ高等常小學校第何學年ノ課程ヲ修了セシコトヲ證ス

年月日

奈良女子高等師範學校